

「名古屋蝶の飛ぶまちプロジェクト」
調査報告書

2013 年 3 月

株式会社 竹中工務店

目 次

はじめに	2
1 調査概要（2010 年度）	4
1.1 調査目的.....	4
1.2 調査箇所（2010 年度）	4
1.3 調査方法（2010 年度）	6
1.4 調査日	8
2 調査結果（2010 年度）	9
2.1 調査結果の概要.....	9
3 調査概要（2011 年度）	11
3.1 調査目的.....	11
3.2 調査箇所（2011 年度）	11
3.3 調査方法（2011 年度）	13
3.4 調査日（2011 年度）	15
4 調査結果（2011 年度）	16
4.1 調査結果の概要.....	16
5 調査概要（2012 年度）	18
5.1 調査目的.....	18
5.2 調査箇所（2012 年度）	18
5.3 調査方法（2012 年度）	20
5.4 調査日（2012 年度）	20
6 調査結果（2012 年度）	21
6.1 調査結果の概要.....	21
7 調査結果のまとめ（2010～2012 年度）	23
7.1 現地調査結果（2010～2012 年度） 及び文献調査結果の整理.....	23
7.2 チョウ類が蜜源として利用した植物.....	24
7.3 各調査地におけるチョウ類の行動.....	36
7.4 調査地におけるチョウ類の種数と多様度指数 B_{ϕ} の関係エラー! ブックマークが定義されていません。38	
7.5 調査地ごとのチョウ類群集の特徴.....	39
8 まとめ.....	46
9 謝辞	46

竹中工務店は、環境の豊かさの指標生物である蝶を対象として、蝶の誘致に有効なミニビオトープとなる食草・食樹・蜜源植物を植えたプランターを、名古屋市中区の企業などのご協力をいただき 10～14 カ所に設置し、そこに飛来した蝶の種類などを 2010 年 4 月から 2012 年 10 月までの約 3 年間、調査してきました。調査結果は一般に公表し、都市の緑地をつないで生物の移動を可能にする都市生態系ネットワークづくりに役立て、人と自然が共生できる都市環境づくりに向けて活用していきます。



【プロジェクトの目的】

蝶は成虫が蜜源に利用する植物（蜜源植物）や、幼虫が食べる植物（食草・食樹）が種類ごとに決まっています。本調査では、名古屋市に飛来しうる約 24 種の蝶が好む植物を約 20 種類植えています。そこに飛来する蝶の種類や個体数と周辺の環境との関係を調べることで、どのような環境を整えれば周辺の生態系拠点から蝶の誘致が可能になるのかを分析します。

[illegible]

【蝶を指標にするメリット】

蝶は、環境の豊かさの指標生物として注目されています。すなわち、蝶の種類が多ければ、その地域は環境汚染が少なく、自然が豊富で、環境が多様であるといえます。逆に、緑が多いのに多種類の蝶が確認できなければ、その地域は環境が単調で、多様さが少ないと予想されます。また、蝶がすみやすい多様な環境は、他の生きものにとってもすみやすい環境といえます。

【調査概要】

都市の再開発やまちづくりにおいて、点在する緑地同士をつないで生物の移動を可能にする都市生態系ネットワークづくりが注目されています。蝶は種類により行動圏が決まっているため、遠くまで移動する際には生息場所、休息場所や採餌場所となる中間地点が不可欠です。

本調査は、都心部の比較的まとまった緑地で蝶の生息場所（供給源）である名城公園周辺と白川公園の2つのコア緑地を中心に行いました。両公園間の距離は約2kmあり、蝶の行動圏を考えると行き来しにくい環境でした。事前に行った生物調査や文献に基づき調査対象種を設定し、ミカンやアザミなど約20種類の食草や蜜源植物を植えたプランターを両公園からの距離が適度にばらつくような場所に設置し、蝶の飛来の有無を調査しました。

（調査手順）

- ① 約20種の食草・食樹・蜜源植物を植栽したプランターを製作
- ② プランターや地植えの花壇を10～14カ所（既存ビルの外構・屋上など）に設置
- ③ 各プランターに飛来した蝶の種と個体数を調査
- ④ コア緑地からの距離や街路樹の状態などが、蝶の飛来にどのような影響を与えるかを総合的に検討し、得られた知見を公表

【調査を実施するに至った背景】

都市における生物多様性の回復が世界的な課題となっており、本調査も都市の生物多様性の向上や自然共生のまちづくりへの貢献を目指しています。

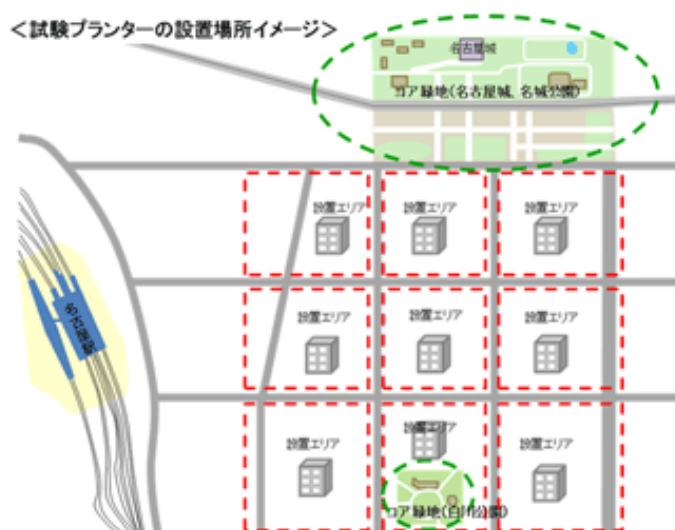
都市が注目される背景として、都市には人口の過半が集中し、自然資源の約75%を消費しており、都市生活者は生物多様性から様々な恵みを受けていることが挙げられます。都市の自然環境の保全・再生に努力し、人と自然にやさしい都市環境づくりを行っていくことは、都市の持続可能性を高め、地球全体の持続可能性にも貢献すると考えられています。

なお、本活動は2010年10月に開催されたCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）の「COP10 パートナiership事業（419号）」として生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会に登録して実施してきました。

【協力いただいた主な設置先】

アムナットスクエア、三井住友銀行 SMBC パーク 栄、岡谷鋼機本社、閑林工業本社、滋賀銀行名古屋支店、名古屋東京海上日動ビルディング、名古屋パナソニックビル、中日ビル、名古屋 AT ビル、名古屋センタービル、三晃錦ビル(2011 年新設)、竹尾名古屋支店(2012 年新設)、ウェスティンナゴヤキャッスル(2012 年新設)、名古屋西幼稚園(2012 年新設)などです。

※名城公園と白川公園の 2 つのコア緑地との関係を考慮しプランターを設置しています。



1 調査概要（2010 年度）

1.1 調査目的

本調査は、「名古屋蝶の飛ぶまちプロジェクト」の実施にあたり、チョウ類に関する調査（種類、個体数など）を行うことを目的とする。

1.2 調査箇所（2010 年度）

調査は表 1.2 に示すとおり、名古屋市中区に設置した 10 箇所のプランターと、5 箇所の既存緑地で行った。

調査箇所を図 1.2 に示す。

表 1.2 2010 年度調査箇所

プランター設置箇所 10 箇所	アムナットスクエア、三井住友銀行 SMBC パーク 栄、岡谷鋼機本社、閑林工業本社、滋賀銀行名古屋支店、名古屋東京海上日動ビルディング作業所、名古屋パナソニックビル、中日ビル、名古屋 AT ビル、名古屋センタービル
既存緑地 5 箇所	名城公園、白川公園、久屋大通公園、オアシス 21、下園公園

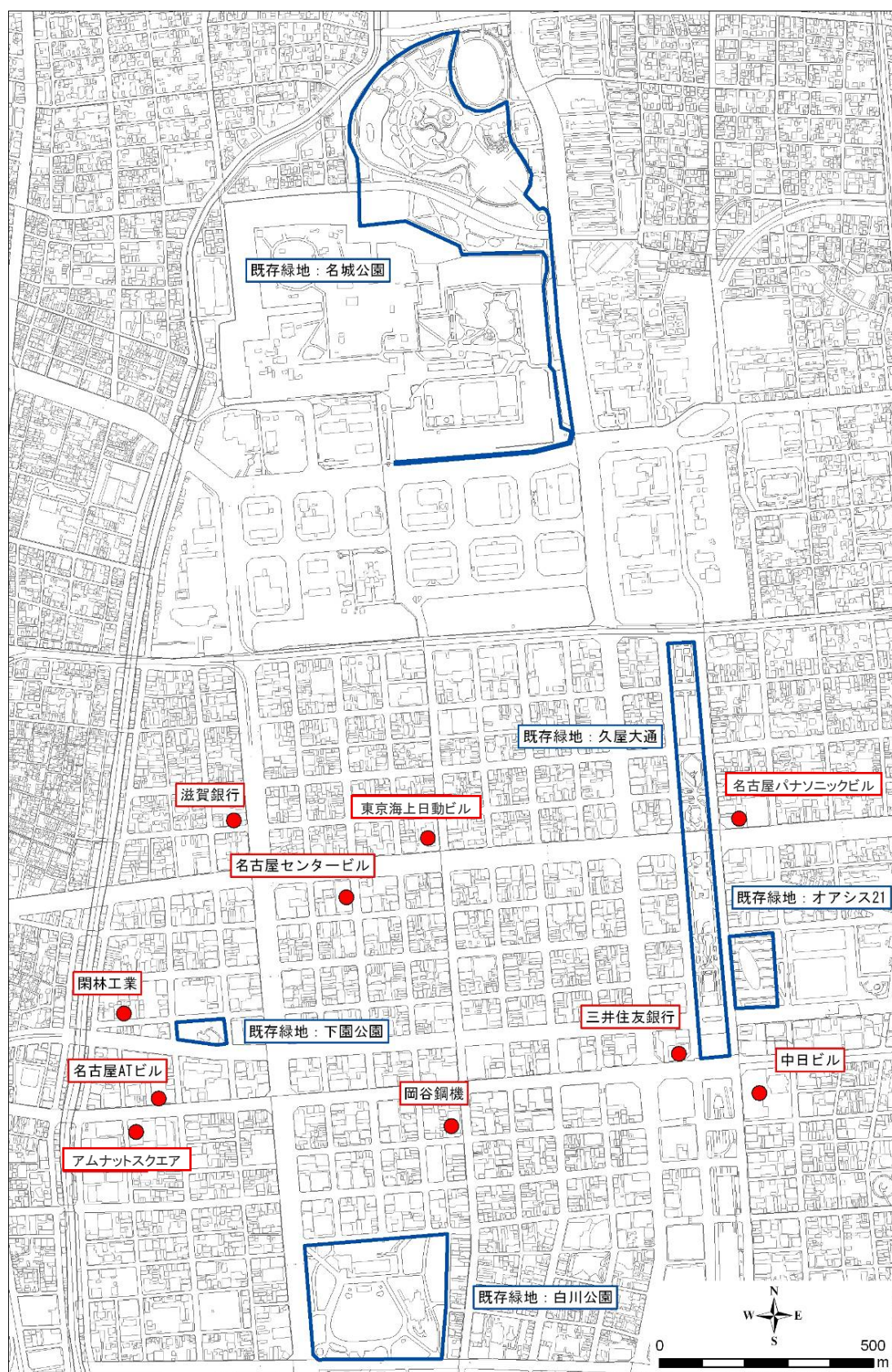


図 1.2 調査箇所（地点名は略号で表記）

1.3 調査方法（2010 年度）

調査は、2010 年 4 月～10 月まで毎月 2 回の調査で、計 14 回実施し、天候はチョウが活発に動く主に晴れの日に行った。調査は、プランター設置箇所（10 箇所）と既存緑地（5 箇所）の食草・食樹・蜜源植物において、チョウ類の種名、個体数、確認ステージ（卵・幼虫・蛹・成虫など）、行動（止まり、飛翔、吸水・蜜源など）を目視により確認し、記録した。その他の鳥類や昆虫類（チョウ類以外）などについてもできるだけ記録するように努めた。調査地点の回り方について、調査回毎に順番をずらし、調査時間帯が偏らないようにした。

表 1.3. (1) 食草・植樹・蜜源植物

植栽植物	食草とする 主なチョウ類	植栽植物	食草とする 主なチョウ類
 アザミ	(蜜源植物)	 カタバミ	ヤマトシジミ
 イヌガラシ	モンシロチョウ スジグロシロチョウ ツマキチョウ	 カワラケツメイ	ツマグロキチョウ
 ウマノスズクサ	ジャコウアゲハ	 ウンシュウミカン	ナミアゲハ クロアゲハ ナガサキアゲハ
 サンショウ	ナミアゲハ クロアゲハ	 ヤブニッケイ	アオスジアゲハ

表 1.3. (1) 食草・植樹・蜜源植物

植栽植物	食草とする 主なチョウ類	植栽植物	食草とする 主なチョウ類
 シロダモ	アオスジアゲハ	 ハナダイコン	スジグロシロチョウ ツマキチョウ
 シロツメクサ	モンキチョウ ツバメシジミ	 ランタナ	(蜜源植物)
 スイバ	ベニシジミ	 ブッドレア	(蜜源植物)
 タチツボスミレ	ツマグロヒョウモン	 アラカシ	ムラサキシジミ (→枯損等により 期中にマテバ シイで代替)
 チガヤ	イチモンジセセリ チャバネセセリ ヒメジャノメ	 ヨモギ	ヒメアカタテハ

表 1.3. (1) 食草・植樹・蜜源植物

植栽植物	食草とする 主なチョウ類	植栽植物	食草とする 主なチョウ類
 ヤマハギ	キチョウ ルリシジミ ウラナミシジミ ツバメシジミ	 ヒサカキ	(開始当初に入手 できない植物材料 の代替植物)

1.4 調査日

調査日を表 1.4 に示す。

表 1.4 調査日 (2010 年度)

調査回	調査日	天候	調査箇所	
			プランター設置箇所	既存緑地
第1回(4月1回目)	4月14日(水)	晴れ	10箇所	5箇所
第2回(4月2回目)	4月26日(月)	晴れ	10箇所	5箇所
第3回(5月1回目)	5月14日(金)	晴れ	10箇所	5箇所
第4回(5月1回目)	5月27日(木)	晴れ	10箇所	5箇所
第5回(6月1回目)	6月8日(火)	曇り	10箇所	5箇所
第6回(6月2回目)	6月22日(火)	曇り	10箇所	5箇所
第7回(7月1回目)	7月7日(水)	曇り	10箇所	5箇所
第8回(7月2回目)	7月21日(水)	晴れ	10箇所	5箇所
第9回(8月1回目)	8月17日(火)	晴れ	10箇所	5箇所
第10回(8月2回目)	8月30日(月)	晴れ	10箇所	5箇所
第11回(9月1回目)	9月13日(月)	曇り時々晴れ一時雨	10箇所	5箇所
第12回(9月2回目)	9月30日(木)	曇り一時雨	10箇所	5箇所
第13回(10月1回目)	10月7日(木)	晴れ	10箇所	5箇所
第14回(10月2回目)	10月18日(月)	晴れ	10箇所	5箇所

2 調査結果（2010 年度）

2.1 調査結果の概要

第 1 回～第 14 回調査（4 月～10 月調査）の期間（下見、自然観察会等を含む）において確認したチョウ類は、計 25 種であった。

プランター設置箇所では、ナミアゲハ、ヤマトシジミの 2 種をすべての地点で確認し、次いでイチモンジセセリとチャバネセセリ（9 箇所）、ツマグロヒョウモン（7 箇所）の順に多く確認した。

既存緑地では、イチモンジセセリ、ナミアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミをすべての地点で確認し、次いでチャバネセセリ、アオスジアゲハ、ナガサキアゲハ、ウラギンシジミ、ツマグロヒョウモン（いずれも 4 地点）の順に多く確認した。

調査で確認されたチョウ種の概要を表 2.1. (1)~2.1. (2)に示す。

表 2.1. (1) 調査結果の概要

No.	目名	科名	種名	プランター設置箇所											既存緑地					
				名古屋 A T ビル	アムナットスクエア	閑林工業本社	滋賀銀行名古屋支店	名古屋東海上日動ビル ディング	名古屋センタービル	岡谷綱機本社	S M B C パーク栄 三井住友銀行	中日ビル	名古屋パナソニックビル	合計	名城公園	白川公園	久屋大通公園	オアシス 21	下園公園	合計
1	チョウ	セセリチョウ	イチモンジセセリ	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫		9	成虫卵	成虫幼虫	成虫	成虫	成虫	5
2			チャバネセセリ		成虫	幼虫 蛹(3) (消失1、 羽化殻2)	成虫	幼虫 蛹(1)	成虫	成虫	成虫	成虫 幼虫 蛹(2) (羽化殻2)	幼虫	9	成虫	成虫幼虫	成虫	成虫		4
3		アゲハチョウ	ジャコウアゲハ 本土亜種											0			成虫 卵 幼虫 蛹(1) (羽化殻)			1
4			アオスジアゲハ	成虫	成虫 幼虫 蛹(2) (消失1、 寄生蜂1?)		成虫 卵 幼虫 蛹(1) (羽化殻)		幼虫			成虫 幼虫 蛹(2) (羽化殻、消失)		5	成虫 卵 幼虫 蛹 (死骸1)	成虫	成虫 幼虫		成虫	4
5			モンキアゲハ											0	成虫					1
6			ナガサキアゲハ					幼虫 蛹(1) (寄生蜂? 1)						1	成虫 幼虫 蛹(1)	成虫 卵 幼虫 蛹(1)	成虫 幼虫 蛹(2) (死骸2)		成虫	4
7			クロアゲハ 本土亜種			飛翔								1	成虫	成虫 幼虫	幼虫(?)			3
8			ナミアゲハ	幼虫	成虫 卵 幼虫 蛹(1) (羽化殻)	幼虫	成虫 卵 幼虫 蛹(7) (羽化殻6)	成虫 卵 幼虫	卵 幼虫 蛹(2) (羽化殻1、 寄生蜂? 1)	成虫 卵 幼虫	卵 幼虫 蛹(1) (羽化殻)	成虫 幼虫	幼虫	10	成虫 卵 幼虫	成虫 卵 幼虫	成虫 卵 幼虫 蛹(1) (死骸1)	成虫	成虫	5

表 2.1. (1) 調査結果の概要

No.	目名	科名	種名	プランター設置箇所											既存緑地						
				名古屋 A T ビル	アムナ ットスクエア	閑林工業本社	滋賀銀行名古屋支店	名古屋 東京海上日動ビル ディング	名古屋 センタービル	岡谷綱機本社	S M B C 三井住友銀行 パーク栄	中日ビル		名古屋 バスター センタービル	名城公園	白川公園	久屋大通公園	オアシス 21	下園公園	合計	
9	チョウ	シロチョウ	モンキチョウ											0	成虫	成虫				2	
10			キチョウ								成虫			1	成虫	成虫	成虫			3	
11			モンシロチョウ		成虫		成虫					成虫		3	成虫 卵 幼虫	成虫 幼虫	成虫 卵	成虫 卵	成虫	5	
12		シジミチョウ	ルリシジミ										0	成虫						1	
13			ツバメシジミ										0	成虫					1		
14			ウラナミシジミ										0	成虫		成虫	成虫		3		
15			ベニシジミ			成虫							1	成虫			成虫		2		
16			ムラサキツバメ										0	成虫 卵 幼虫 蛹(2) (羽化殻1)	成虫					2	
			ヤマトシジミ 本土亜種	成虫 幼虫	成虫 卵 幼虫 蛹(1)	成虫 卵 蛹(1) (羽化殻)	成虫 産卵	成虫 卵 幼虫 蛹(10) (羽化殻 8)	成虫 幼虫	成虫	成虫 卵	成虫 卵 幼虫 蛹(30) (羽化殻22、 死骸1)	成虫 卵	10	成虫 卵 幼虫	成虫 卵 蛹(1)	成虫 卵 幼虫	成虫 卵	成虫	5	
18		ウラギンシジミチョウ	ウラギンシジミ										0	成虫	成虫	成虫		成虫	4		
19		マダラチョウ	アサギマダラ										0	成虫					1		
20		タテハチョウ	ツマグロヒョウモン	幼虫				幼虫 蛹(1) (羽化殻)	幼虫 成虫	蛹(2) (羽化殻1、 寄生蜂？1)		成虫	幼虫	幼虫	7	成虫	成虫	成虫	成虫 幼虫		4
21			ヒメアカタテハ											0	成虫					1	
22			ゴマダラチョウ											0	成虫					1	
23			ルリタテハ 本土亜種											0	成虫		成虫			2	
24			キタテハ											0	成虫	成虫				2	
25			アカタテハ											0	成虫 幼虫		成虫				2
			合計1目7科25種	5種	6種	6種	7種	6種	6種	4種	6種	7種	5種	—	24種	14種	15種	8種	7種	—	

注 1) 種名及び分類順は「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（環境庁、1995）に従った。
注 2) 確認したチョウ類のうち、ジャコウアゲハ本土亜種は、「名古屋市版レッドリスト 2010」で「NT（準絶滅危惧）」に選定されている。他の種は選定種に含まれず、名古屋市内で普通に見られる種である。

3 調査概要（2011 年度）

3.1 調査目的

本調査は、「名古屋蝶の飛ぶまちプロジェクト」の実施にあたり、2010 年度に引き続き、チョウ類に関する調査（種類、個体数など）を行うことを目的とした。

3.2 調査箇所（2011 年度）

調査は表 1.2 に示すとおり、名古屋市中区に設置した 11 箇所のプランターと、5 箇所の既存緑地で行った。

調査箇所を図 1.2 に示す。

表 3.2 調査箇所

プランター設置箇所 11 箇所	アムナットスクエア、三井住友銀行 SMBCパーク 栄、岡谷鋼機本社、閑林工業本社、三晃錦ビル、滋賀銀行名古屋支店、名古屋パナソニックビル、中日ビル、名古屋 AT ビル、名古屋センタービル 1F、名古屋センタービル屋上
既存緑地 5 箇所	名城公園、白川公園、久屋大通公園、オアシス 21、下園公園

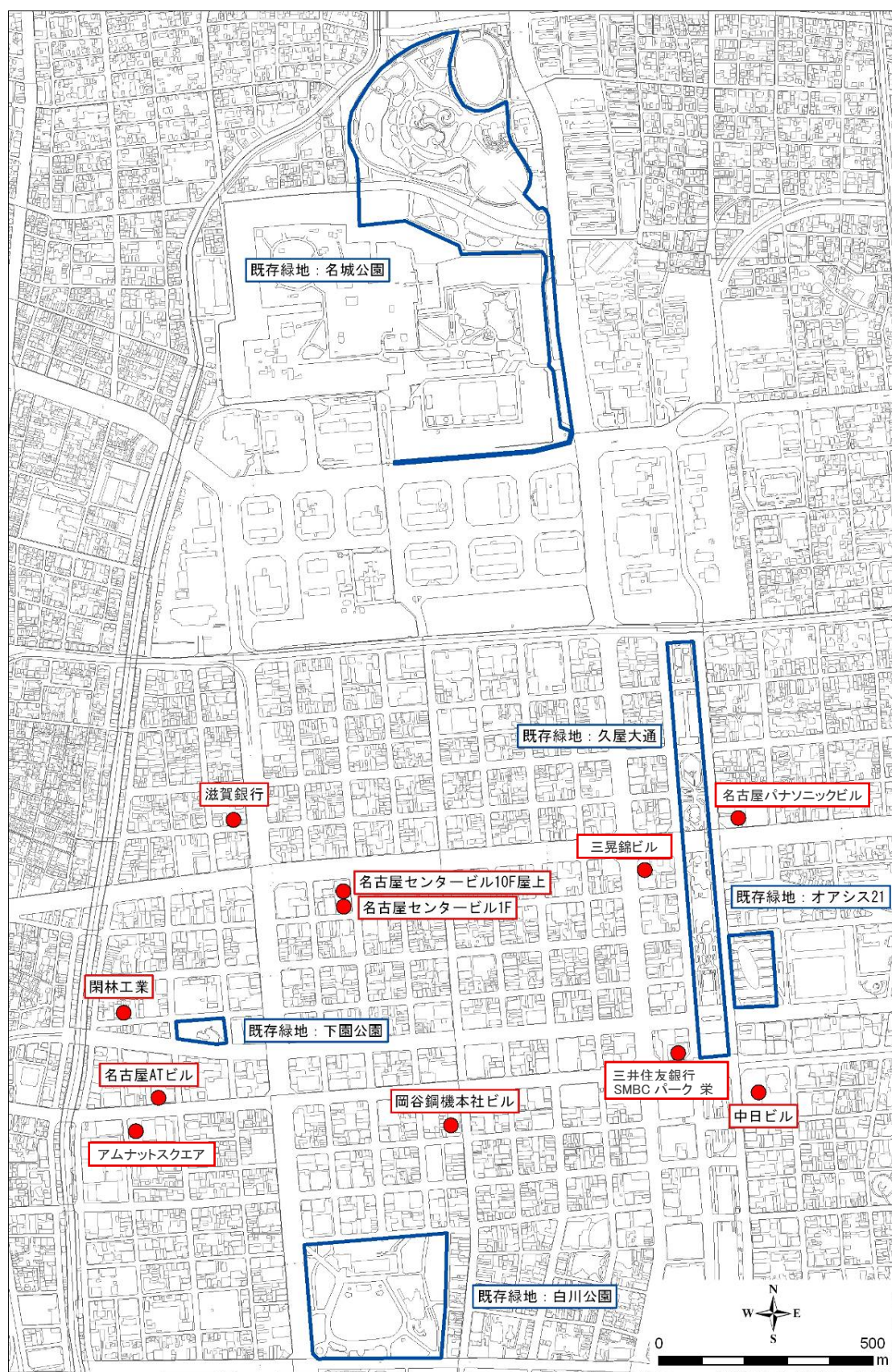


図 3.2 調査箇所（地点名は略号で表記）

3.3 調査方法（2011 年度）

調査は、2011 年 4 月～10 月までほぼ毎月 2 回の調査で、計 13 回実施し、天候はチョウが活発に動く主に晴れの日に行った。調査は、プランター設置箇所（11 箇所）と既存緑地（5 箇所）の食草・食樹・蜜源植物において、チョウ類の種名、個体数、確認ステージ（卵・幼虫・蛹・成虫など）、行動（止まり、飛翔、吸水・蜜源など）を目視により確認し、記録した。その他の鳥類や昆虫類（チョウ類以外）などについてもできるだけ記録するように努めた。調査地点の回り方について、調査回毎に順番をずらし、調査時間帯が偏らないようにした。

表 3.3. (1) 食草・植樹・蜜源植物

植栽植物	食草とする 主なチョウ類	植栽植物	食草とする 主なチョウ類
 アザミ	(蜜源植物)	 カタバミ	ヤマトシジミ
 アラカシ	ムラサキシジミ	 キャベツ	モンシロチョウ (2011年より 新規導入)
 ウマノスズクサ	ジャコウアゲハ	 サンショウ	ナミアゲハ クロアゲハ
 ウンシュウミカン	ナミアゲハ クロアゲハ ナガサキアゲハ	 シロツメクサ	モンシロチョウ モンキチョウ ツバメシジミ ルリシジミ

表 1.2) 食草・植樹・蜜源植物

植栽植物	食草とする 主なチョウ類	植栽植物	食草とする 主なチョウ類
 シロダモ	アオスジアゲハ	 ハナダイコン	スジグロシロチョウ ツマキチョウ (枯損により期中 でブロッコリーに 変更)
 スイバ	ベニシジミ	 ヒサカキ	(冬期の景観を整 えるために使用)
 タチツボスミレ	ツマグロヒヨウモン	 ブッドレア	(蜜源植物)
 チガヤ	イチモンジセセリ チャバネセセリ ヒメジャノメ	 マテバシイ	ムラサキシジミ
 パセリ	キアゲハ (2011年より 新規導入)	 ヤブニッケイ	アオスジアゲハ

表 1.3. (1) 食草・植樹・蜜源植物

植栽植物	食草とする 主なチョウ類	植栽植物	食草とする 主なチョウ類
 ヤブラン	(冬期の景観を整えるために使用)	 ランタナ	(蜜源植物)
 ヤマハギ	キチョウ ウラナミシジミ	 ヨモギ	ヒメアカタテハ

3.4 調査日（2011 年度）

調査日を表 1.4 に示す。

表 3.4 調査日

調査回	調査日	天候	調査箇所	
			プランター設置箇所	既存緑地
第15回(4月)	4月20日(水)	晴れ	11箇所	5箇所
第16回(5月1回目)	5月6日(金)	晴れ時々曇り	11箇所	5箇所
第17回(5月1回目)	5月19日(木)	晴れ	11箇所	5箇所
第18回(6月1回目)	6月1日(水)	雨	11箇所	5箇所
第19回(6月2回目)	6月22日(水)	晴れ時々曇り	11箇所	5箇所
第20回(7月1回目)	7月6日(水)	晴れ	11箇所	5箇所
第21回(7月2回目)	7月27日(水)	曇り	11箇所	5箇所
第22回(8月1回目)	8月8日(月)	晴れ	11箇所	5箇所
第23回(8月2回目)	8月24日(水)	晴れのち曇り	11箇所	5箇所
第24回(9月1回目)	9月7日(水)	晴れ	11箇所	5箇所
第25回(9月2回目)	9月22日(木)	晴れ	11箇所	5箇所
第26回(10月1回目)	10月5日(水)	曇りのち雨	11箇所	5箇所
第27回(10月2回目)	10月20日(木)	晴れ	11箇所	5箇所

※調査回は2010年度（第1回～第14回）に引き続き、第15回～とした。

4 調査結果（2011 年度）

4.1 調査結果の概要

第 15 回～第 27 回調査（4 月～10 月調査）の期間（自然観察会等を含む）において確認したチョウ類は、計 25 種であった。

プランター設置箇所では、ナミアゲハとヤマトシジミをすべての地点で確認し、次いでアオスジアゲハ（9 箇所）、イチモンジセセリとモンシロチョウ（7 箇所）の順に多く確認した。

既存緑地では、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミをすべての地点で確認し、次いでイチモンジセセリ、ナミアゲハ、ウラナミシジミ、ツマグロヒョウモン（いずれも 4 地点）の順に多く確認した。

調査で確認されたチョウ種の概要を表 2.1. (1)~4.1. (2) に示す。

表 4.1. (1) 調査結果の概要

No.	目名	科名	種名(和名)	プランター設置箇所												既存緑地					
				名古屋 A T ビル	アムナットスクエア	閑林工業本社	滋賀銀行名古屋支店	名古屋センタービル 1 F	名古屋センタービル屋上	岡谷鋼機本社	S M B C パーク栄 三井住友銀行	中日ビル	名古屋パナソニックビル	三晃社	合計	名城公園	白川公園	久屋大通公園	オアシス 21	下園公園	合計
1	チョウ	セセリチョウ	イチモンジセセリ	成虫	成虫		成虫	成虫	成虫	成虫	成虫				7	成虫卵	成虫	成虫	成虫		4
2			チャバネセセリ		成虫			成虫				蛹(1) (死骸1)			3	成虫		成虫	成虫		3
3		アゲハチョウ	アオスジアゲハ	成虫	成虫	成虫	成虫卵 幼虫 蛹(5) (羽化殻1、 死骸1)	幼虫 蛹(1) (死骸1)		成虫	成虫卵 幼虫 蛹(1)	成虫 幼虫 蛹(3) (死骸3)		幼虫 蛹(4) (死骸4)	9	成虫 幼虫	成虫	成虫 卵 幼虫	成虫	成虫	5
4			カラスアゲハ 本土亜種												0	成虫					1
5			キアゲハ												0	幼虫					1
6			ナガサキアゲハ												0	成虫 幼虫	幼虫 蛹(2) (死骸1)	幼虫			3
7			クロアゲハ 本土亜種												0	成虫	幼虫	幼虫			3
8			ナミアゲハ	卵 幼虫 蛹(1) (消失1)	成虫 卵 幼虫 蛹(1)	成虫 卵 幼虫	成虫 卵 幼虫 蛹(1) (羽化殻1)	成虫 卵 幼虫	卵 幼虫 蛹(1) (羽化殻1)	成虫 卵 幼虫 蛹(1)	卵 幼虫	成虫 卵 幼虫 蛹(5) (羽化殻1)	成虫 幼虫	成虫 幼虫	11	成虫 卵 幼虫 蛹(1) (死骸1)	成虫 卵 幼虫 蛹(1)	成虫 卵 幼虫		成虫	4
9		シロチョウ	モンキチョウ												0	成虫	成虫				2

表 2.1. (1) 調査結果の概要

No.	目名	科名	種名(和名)	プランター設置箇所												既存緑地					
				名古屋 A T ビル	アムナ ットスクエア	閑林工業 本社	滋賀銀行 名古屋支店	名古屋セ ンタービル 1 F	名古屋セ ンタービル 屋上	岡谷鋼機 本社	S M B C 三井住友銀行 パーク栄	中日ビル	名古屋パ ナソニックビル	三晃錦ビル	合計	名城公園	白川公園	久屋大通公園	オアシス 21	下園公園	合計
10			キチョウ											0	成虫		成虫	成虫		3	
11			モンシロチョウ	成虫 卵 蛹(1) (死骸1)	卵		幼虫		幼虫	幼虫	卵 幼虫	成虫 幼虫			7	成虫 卵	成虫 卵 蛹(1)	成虫 卵	成虫	成虫	5
12		シジミチョウ	ツバメシジミ											0	成虫	成虫				2	
13			ウラナミシジミ											0	成虫	成虫	成虫	成虫		4	
14			ベニシジミ											0	成虫 卵		成虫			2	
15			ムラサキツバメ											0	成虫 幼虫					1	
16			ヤマトシジミ 本土亜種	成虫 卵 幼虫	成虫 卵 幼虫 蛹(1)	成虫 幼虫	成虫 卵	成虫 卵 幼虫	成虫	成虫	成虫	成虫 幼虫 蛹(1) (羽化殻1)	成虫 幼虫	11	成虫 卵	成虫	成虫 卵	成虫 卵	成虫 卵	5	
17		ウラギンシジミチョウ	ウラギンシジミ										0	成虫		成虫		成虫	3		
18		テングチョウ	テングチョウ 本土亜種										0	成虫					1		
19		タテハチョウ	ミドリヒョウモン										0	成虫					1		
20			ツマグロヒョウモン			成虫							1	成虫 卵 幼虫	成虫	成虫	成虫 卵		4		
21			ヒメアカタテハ										0	成虫	成虫				2		
22			ゴマダラチョウ ^{注2)}										0						0		
23			ルリタテハ 本土亜種										0	成虫				成虫		2	
24			キタテハ										0	成虫						1	
25			アカタテハ										0	成虫 幼虫 蛹(1) (死骸1)						1	
1目7科25種				5種	6種	4種	5種	5種	4種	5種	5種	5種	2種	3種	—	24種	12種	13種	9種	5種	—

5 調査概要（2012 年度）

5.1 調査目的

本調査は、「名古屋 蝶の飛ぶまちプロジェクト」の実施にあたり、2010、2011 年度に引き続き、チョウ類に関する調査（種類、個体数など）を行うことを目的とした。

5.2 調査箇所（2012 年度）

調査は表 5.2 に示すとおり、名古屋市中区等に設置した 14 箇所のプランターと、5 箇所の既存緑地で行った。

表 5.2 調査箇所

プランター設置箇所 14 箇所	アムナットスクエア、三井住友銀行 SMBC パーク栄、岡谷鋼機本社、閑林工業本社、三晃錦ビル、滋賀銀行名古屋支店、名古屋東京海上日動ビルディング作業所、名古屋パナソニックビル、中日ビル、名古屋 ATビル、名古屋センタービル、ウェスティンナゴヤキャッスル、竹尾名古屋支店、名古屋西幼稚園
既存緑地 5 箇所	名城公園、白川公園、久屋大通公園、オアシス 21、下園公園

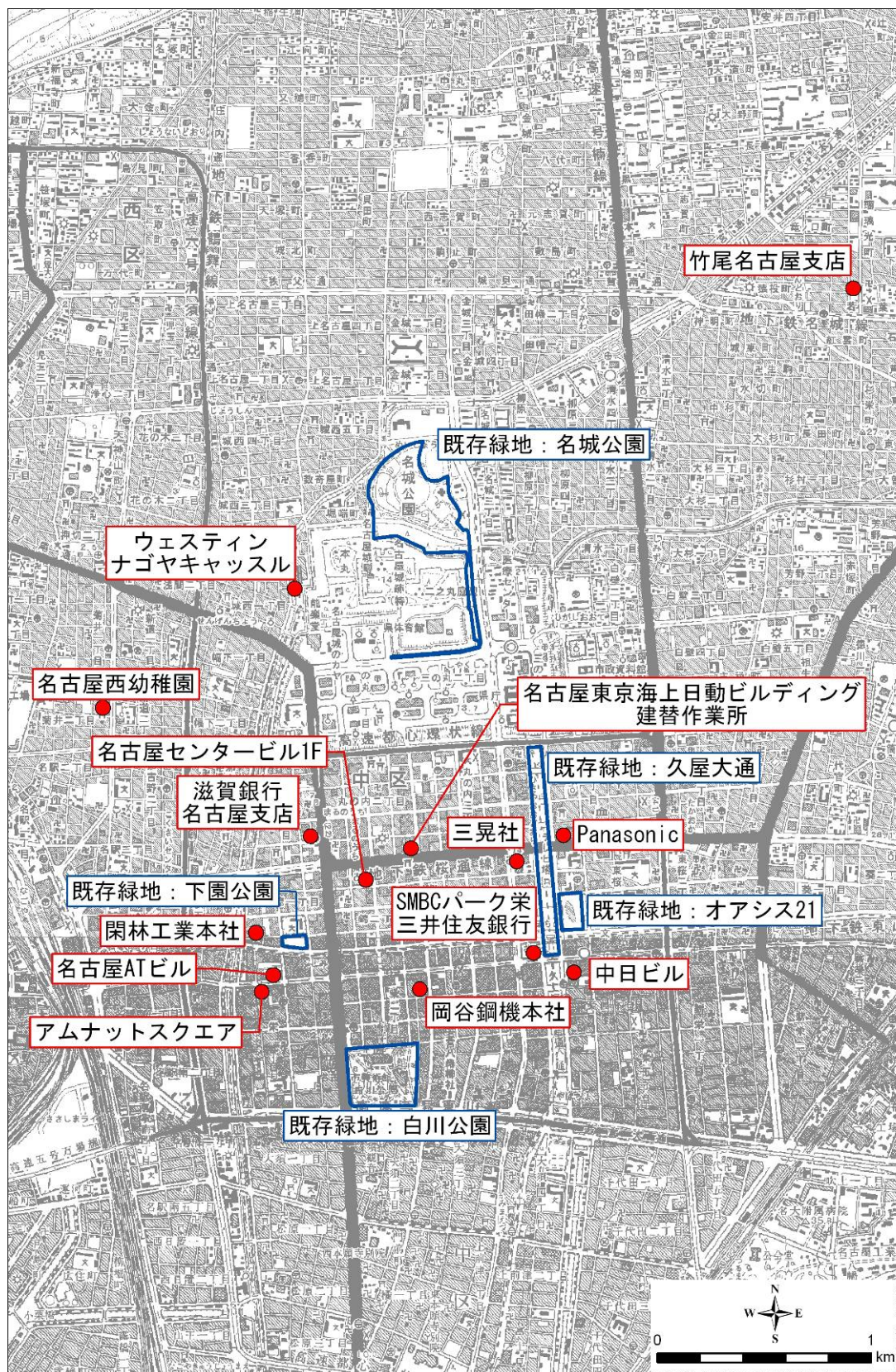


図 5.2 調査箇所（地点名は略号で表記）

5.3 調査方法（2012 年度）

調査は、2012 年 4 月～10 月まではほぼ毎月 2 回の調査で、計 13 回実施し、天候はチョウが活発に動く主に晴れの日に行った。調査は、プランター設置箇所（14 箇所）と既存緑地（5 箇所）の食草・食樹・蜜源植物において、チョウ類の種名、個体数、確認ステージ（卵・幼虫・蛹・成虫など）、行動（止まり、飛翔、吸水・吸蜜など）を目視により確認し、記録した。その他の鳥類や昆虫類（チョウ類以外）などについてもできるだけ記録するように努めた。調査地点の回り方について、調査回毎に順番をずらし、調査時間帯が偏らないようにした。

5.4 調査日（2012 年度）

調査日を表 5.4 に示す。

表 5.4 調査日

調査回	調査日	天候	調査箇所	
			プランター設置箇所	既存緑地
第28回(4月)	4月25日(水)	晴れ	11箇所	5箇所
第29回(5月1回目)	5月9日(水)	曇り	11箇所	5箇所
第30回(5月2回目)	5月25日(金)	曇り時々雨	11箇所	5箇所
第31回(6月1回目)	6月15日(金)	曇り	11箇所	5箇所
第32回(6月2回目)	6月27日(水)	晴れ	11箇所	5箇所
第33回(7月1回目)	7月13日(金)	曇り	11箇所	5箇所
第34回(7月2回目)	7月26日(木)	晴れ	11箇所	5箇所
第35回(8月1回目)	8月10日(金)	曇り時々晴れ	11箇所	5箇所
第36回(8月2回目)	8月21日(火)	晴れ時々曇り	11箇所	5箇所
第37回(9月1回目)	9月4日(火)	曇り時々晴れ	11箇所	5箇所
第38回(9月2回目)	9月19日(水)	曇り時々晴れ	11箇所	5箇所
第39回(10月1回目)	10月3日(水)	晴れ	11箇所	5箇所
第40回(10月2回目)	10月17日(水)	曇りのち雨	11箇所	5箇所

※調査回は 2011 年度（第 15 回～第 27 回）に引き続き、第 28 回～とした。

6 調査結果（2012 年度）

6.1 調査結果の概要

第 28 回～第 40 回調査（4 月～10 月調査）の期間（自然観察会等を含む）において確認したチョウ類は、計 23 種であった。

プランター設置箇所では、ナミアゲハを 14 箇所すべてで確認し、次いでアオスジアゲハとヤマトシジミ（13 箇所）、イチモンジセセリとモンシロチョウ（11 箇所）の順に多く確認した。

既存緑地では、イチモンジセセリ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミを 5 箇所すべて確認し、次いでチャバネセセリ（4 箇所）、ナガサキアゲハとツマグロヒョウモン（3 箇所）の順に多く確認した。調査で確認されたチョウ種の概要を表 6.1.(1)～6.1.(2)に示す。

表 6.1. (1) 調査結果の概要

No.	科名	種名(和名)	プランター設置箇所															既存緑地					
			名古屋 A T ビル	アムナット スクエア	閑林工業 本社	滋賀銀行 名古屋支店	名古屋 センタービル 1 F	名古屋 動屋ビル 東京デ 海イ上 グ 作業所	岡谷 鋼機 本社	S三 M井 B住 C友 パ銀 1行 ク 栄	中日 ビル	名古屋 パナソ ニックビル	三晃 社	竹尾 名古屋支店	ウナ ェゴ スヤ テキヤ ンスル	名古屋 西幼稚園	合計	名城公園	白川公園	久屋大通公園	オアシス 21	下園公園	合計
1	セセリチョウ	イチモンジセセリ	成虫	成虫 卵		成虫	成虫 卵 幼虫	成虫 卵	成虫	成虫	成虫			成虫	成虫	成虫	11	成虫	成虫 卵 幼虫	成虫	成虫	成虫	5
2		チャバネセセリ					成虫 卵 幼虫	成虫		成虫	成虫		成虫	成虫	成虫	幼虫	8	成虫	成虫	成虫 卵 蛹		成虫	4
ー		セセリチョウ科の一種					卵	卵									2			卵			1
3	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ 本土亜種															0	成虫					1
4		アオスジアゲハ	幼虫	成虫 卵 幼虫	幼虫	成虫 幼虫	幼虫		卵 幼虫 蛹 成虫	成虫 卵 幼虫	成虫 幼虫 蛹	成虫	成虫	幼虫 蛹	成虫 卵	卵 幼虫	13	成虫 幼虫	成虫	成虫	成虫	成虫	5
5		カラスアゲハ 本土亜種															0	幼虫					1
6		ナガサキアゲハ															0	成虫 幼虫	成虫	成虫			3
7		クロアゲハ 本土亜種															0	成虫 幼虫					1
8		ナミアゲハ	卵 幼虫	成虫 卵 幼虫	成虫 幼虫	卵 幼虫 前蛹	成虫 卵 幼虫	卵 幼虫	成虫 卵 幼虫	卵 幼虫	成虫 卵 幼虫 蛹	幼虫	幼虫 蛹	成虫 卵 幼虫	成虫 卵 幼虫	成虫 卵 幼虫	14	成虫 卵 幼虫	成虫	成虫 卵 幼虫	成虫	成虫	5
9	シロチョウ	モンキチョウ															0	成虫	成虫				2

表 6. 1. (2) 調査結果の概要

No.	科名	種名(和名)	プランター設置箇所															既存緑地					
			名古屋 A T ビル	アム ナ ット スク エア	閑林工 業本 社	滋賀銀 行名 古屋 支店	名古屋 セン ター ビル 1 F	名日古 動屋ビ 東ル京 デ海イ 上ング 作業所	岡谷鋼 機本 社	S三 M井 B住 C友 パ銀 1 行 ク 栄	中日ビ ル	名古屋 パナソ ニック ビル	三晃社	竹尾名 古屋支 店	ウナ エゴ スヤ テキ ヤン ッス ル	名古屋 西幼稚園	合計	名城公園	白川公園	久屋大通公園	オアシス 21	下園公園	合計
10		キチョウ													成虫		1	成虫		成虫			2
11		モンシロチョウ	幼虫	卵		成虫 卵 幼虫 蛹	成虫 卵 幼虫	幼虫 蛹	卵	卵 幼虫 蛹	幼虫			成虫 卵 幼虫 蛹	成虫 卵 幼虫	卵 幼虫	11	成虫 卵	成虫 卵 幼虫 蛹	成虫 卵	成虫	成虫 幼虫	5
12	シジミチョウ	ツバメシジミ													成虫		1	成虫					1
13		ウラナミシジミ													成虫		1	成虫	成虫	成虫			3
14		ベニシジミ						成虫 幼虫							成虫		2	成虫 卵 幼虫		成虫			2
15		ムラサキツバメ															0	幼虫				卵 幼虫	2
16		ヤマトシジミ 本土亜種		成虫 卵 幼虫	成虫 卵 幼虫 蛹	成虫 卵 幼虫	成虫 卵 幼虫	成虫 卵 幼虫 蛹	成虫 卵 幼虫 蛹	成虫 卵	卵 幼虫 蛹	成虫 卵 幼虫	成虫	成虫 卵 幼虫	成虫 卵	成虫 卵	13	成虫 卵	成虫	成虫 卵	成虫 卵	成虫 卵	5
17	ウラギンシジミチョウ	ウラギンシジミ															0	成虫 卵		成虫			2
18	タテハチョウ	ツマグロヒョウモン		幼虫	成虫		成虫	成虫 幼虫		成虫	成虫		幼虫	成虫 幼虫	成虫	成虫 幼虫	10	成虫 幼虫	成虫	成虫	成虫		3
19		ゴマダラチョウ															0	成虫					1
20		ルリタテハ 本土亜種														成虫	1	成虫					1
21		キタテハ															0	成虫		成虫			2
22		アカタテハ															0	成虫 幼虫	成虫				2
23	ジャノメチョウ	クロコノマチョウ															0	成虫					1
7科23種			4種	6種	4種	5種	7種	7種	5種	7種	7種	3種	5種	7種	11種	8種	－	23種	11種	13種	6種	7種	－

注 1) 種名及び分類順は「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」(環境庁、1995)に従った。
注 2) 確認したチョウ類のうち、ジャコウアゲハは「名古屋市版レッドリスト 2010」で「NT (準絶滅危惧)」に選定されている。他の種は選定種に含まれず、名古屋市内で普通に見られる種とされている。
注 3) セセリチョウ科の一種は卵で確認され、イチモンジセセリもしくはチャバネセセリと考えられた。このため、種数としてカウントしていない。
注 4) 卵・蛹等には、後に孵化殻・羽化殻が確認されたもの(無事に羽化したもの)、寄生バチ・寄生ハエ等により死んだもの等が含まれる。

7 調査結果のまとめ（2010～2012 年度）

7.1 現地調査結果（2010～2012 年度）及び文献調査結果の整理

現地調査結果（2010～2012 年度）及び文献調査結果（名古屋城に生息するチョウ類）を整理し、得られたチョウ類の確認種一覧を表 7.1 に示す。

表 7.1 確認種一覧～現地調査結果（2010～2012 年度）及び文献調査結果～

No .	科名	種名(和名)	名古屋 ATビル	アムナット スクエア	閑林工業 本社	滋賀銀行 名古屋支店	名古屋東京海 上日動 ビルディング	名古屋セン タービル1F	名古屋セ ンタービル 屋上	岡谷鋼機 本社	三井住友銀行 SMBC パーク 栄	中日 ビル	名古屋パナ ソニックビル	三晃錦 ビル	竹尾 名古屋 支店	ウェスティン ナゴヤ キャッスル	名古屋 西 幼稚園	名城 公園	白川 公園	久屋 大通	オアシス 21	下園 公園	調査 全体	文献 注2)	
			2010～ 2012	2010～ 2012	2010～ 2012	2010～ 2012	2010～ 2012	2010～ 2012	2011	2010～ 2012	2010～ 2012	2010～ 2012	2010～ 2012	2011～ 2012	2012	2012	2012	2010～ 2012	2010～ 2012	2010～ 2012	2010～ 2012	2010～ 2012			
1	セセリチョウ	ダイミョウセセリ																						○	
2		イチモンジセセリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3		チャバネセセリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
ー		セセリチョウ科の一種					(○)	(○)													(○)			○	
4	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ 本土亜種																○		○			○	○	
5		アオスジアゲハ	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6		カラスアゲハ 本土亜種																○					○	○	
7		モンキアゲハ																○					○		
8		キアゲハ																○					○	○	
9		ナガサキアゲハ					○											○	○	○		○	○		
10		クロアゲハ 本土亜種																○	○	○			○	○	
11		ナミアゲハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
12	シロチョウ	モンキチョウ																○	○				○	○	
13		キチョウ									○							○	○	○			○	○	
14		モンシロチョウ	○	○		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
15	シジミチョウ	ルリシジミ																○					○		
16		ツバメシジミ																○	○				○	○	
17		ウラナシジミ																○	○	○	○		○		
18		ベニシジミ			○		○											○		○	○		○	○	
19		ムラサキツバメ																○	○			○	○		
20		ムラサキシジミ																						○	
21		ヤマトシジミ 本土亜種	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22	ウラギン シジミチョウ	ウラギンシジミ																○	○	○		○	○	○	
23	テングチョウ	テングチョウ本土亜種																○					○	○	
24	マダラチョウ	アサギマダラ																○					○	○	
25	タテハチョウ	ミドリヒョウモン																○					○	○	
26		ツマグロヒョウモン	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
27		ヒメアカタテハ																○	○				○	○	
28		ゴマダラチョウ																○					○	○	
29		ルリタテハ 本土亜種																○		○	○		○	○	
30		イチモンジチョウ																						○	
31		ヒオドシチョウ																						○	
32		キタテハ																	○	○	○	○		○	○
33		アカタテハ																	○	○	○			○	○
34		コムラサキ																	○						
35	ジャノメチョウ	クロコノマチョウ																○					○		
36		サトキマダラヒカゲ																						○	
37		ヒメウラナミジャノメ																						○	
9科36種			6種	7種	7種	7種	8種	7種	4種	6種	8種	7種	5種	5種	7種	11種	8種	31種	18種	17種	11種	9種	30種	29種	

注1) 種名及び分類順は「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」(環境庁、1995)にしたがった。

注2) 文献:「名古屋城の自然・昆虫編」(林昌利著、2001年)

注3) セセリチョウ科の一種は卵で確認され、イチモンジセセリもしくはチャバネセセリと考えられた。このため、種数としてカウントしていない。

7.2 チョウ類が蜜源として利用した植物

現地調査（2010 年度～2012 年度）において、チョウ類が蜜源に利用した植物を整理した。

チョウ類は、プランター設置箇所ではブッドレア、ランタナ、ブルーサルビア等、既存緑地ではアベリア、キバナコスモス、シロツメクサ等を吸蜜植物として利用していた。

整理した結果を表 7.2.(1)～表 7.に示す。

表 7.2. (1) チョウ類が蜜源で利用した植物（2010 年度）

No.	種名(和名)	プランター設置箇所											既存緑地					
		名古屋 A T ビル	アムナ ットス クエア	閑林工 業本社	滋賀銀 行名古 屋支店	名古屋 東京海 上日動 ビル デイン グ	名古屋 センタ ービル	岡谷鋼 機本社	S M B C パー ク 栄	中日ビ ル	名古屋 パナソ ニック ビル	合 計	名城公 園	白川公 園	久屋大 通公園	オアシ ス 21	下園公 園	合 計
1	イチモンジセセリ				ランタナ、 ブッドレア	ブッドレア	ブッドレア		ブッドレア	ランタナ		5	キク科園芸 植物、紫色 の園芸植 物、ブルー サルビア、 アベリア、コ スモス、白 い花(ツル 植物)	ブルーサ ルビア、キ バナコスモ ス	ブルーサ ルビア、ペ ンタス、キ バナコスモ ス	パンジー、 キク科園 芸植物、 ベンケイソ ウ類の園 芸植物、キ バナコスモ ス	紫色の園 芸植物	5
2	チャバネセセリ			ブッドレ ア、ランタ ナ					ブッドレア	ブッドレア		3	園芸植物、 アベリア、ブ ルーサルビ ア、コスモス	ブルーサ ルビア、ア ベリア、キ バナコスモ ス、マリー ゴールド	サルビア、 ブルーサ ルビア、ペ ンタス、キ バナコスモ ス	ランタ ナ？、ブル ーサルビ ア、キク科 園芸植物		4
3	ジャコウアゲハ 本土亜種											0			ツツジ、ア ベリア			1
4	アオスジアゲハ				ブッドレア							1	シロツメク サ、キク科 園芸植物、 ヤブガラ シ、ポーチ ュラカ？、ア ベリア、コス モス	シロツメク サ、シャリ ンバイ、紅 色の園芸 植物、ブル ーサルビ ア、キバナ コスモス	マテバシイ の花、シャ リンバイ、ヒ メジョオン、 紫色の サルビア、 黄色の園 芸植物、ヤ ブガラシ		ヤブガラシ	4
5	モンキアゲハ											0						0
6	ナガサキアゲハ											0	アベリア、ア ガパンサス				アガパン サス	2
7	クロアゲハ 本土亜種											0						0

表 7.2. (2) チョウ類が蜜源で利用した植物 (2010 年度)

No.	種名 (和名)	プランター設置箇所											既存緑地					
		名古屋 A T ビル	アムナ ットスク エア	閑林工 業本社	滋賀銀 行名古屋 支店	名古屋東 海上日動 ビル デイン グ	名古屋セ ンタービ ル	岡谷鋼 機本社	S M B C 三井住友 銀行 パーク栄	中日ビ ル	名古屋パ ナソニッ クビル	合計	名城公 園	白川公 園	久屋大 通公園	オアシ ス 21	下園公 園	合計
8	ナミアゲハ					ブッドレア		ヤブガラシ				2	ハボタン (?)の花、 サツキ、ヤ ブガラシ、 園芸植物	園芸植 物、アブラ ナ、パンジ ー、タンポ ポ類、紅色 の園芸植 物、キバナ コスモス、 サルスベリ	アベリア		ヒメジョオ ン、アガパ ンサス	4
9	モンキチョウ											0		アブラナ				1
10	キチョウ								ランタナ			1	アメリカセン ダングサ?		ブルーサル ビア			2
11	モンシロチョウ											0	ヒメジョ オン、紫色 のサルビア 、ロシアン セージ、タン ポポ、イヌガ ラシ、ポー チュラカ?、 紫色の園芸 植物、白色 の園芸植 物、ブルー サルビア、 園芸植物	アブラナ、 タンポポ、 シロツメク サ、タネツ ケバナ?	アメリカハ ナミズキ、 ネズミモ チ、中央 分離帯植 栽の花、 紫色のサル ビア、ブル ーサル ビア	カタバミ 類、キク科 園芸植 物、ローズ マリー	キク科の黄 色い花	5
12	ルリシジミ											0	フジ					1
13	ツバメシジミ											0						0
14	ウラナミシジミ											0	シナモンバ ジル		ブルーサル ビア			2
15	ベニシジミ											0	ヒメジョオン			キバナコス モス		2

表 7.2. (3) チョウ類が蜜源で利用した植物 (2010 年度)

No.	種名(和名)	プランター設置箇所											既存緑地					
		名古屋 A T ビル	ア ム ナ ッ ト ス ク エ ア	閑 林 工 業 本 社	滋 賀 銀 行 名 古 屋 支 店	名古屋東京海上日動ビル ディング	名古屋セ ン タ ー ビ ル	岡 谷 鋼 機 本 社	S M B C パ ー ク 栄 三井住友銀行	中 日 ビ ル	名古屋。ナソニックビル	合 計	名 城 公 園	白 川 公 園	久 屋 大 通 公 園	オ ア シ ス 21	下 園 公 園	合 計
16	ムラサキツバメ											0						0
17	ヤマトシジミ 本土亜種		ランタナ	シロツメク サ、黄色い 花	アザミ、ラ ンタナ	アザミ、シ ロツメク サ、カタバ ミ	ランタナ、 カタバミ	ブッドレア	黄色い花	ランタナ		8	ヘビイチ ゴ?、シロツ メクサ、園芸 植物、カタ バミ、ブル ーサルビ ア、ヤブガ ラシ、花壇 の各種の 花、イノコヅ チ	アブラナ、 カタバミ 類、キバナ コスモス、 マリーゴー ルド、ブル ーサルビ ア	カタバミ、 紫色のサル ビア、ム ラサキカタ バミ、黄色 の園芸植 物、ブルー サルビア、 ペンタス、 メランポジ ウム、キバ ナコスモス	デイズ (?)、カタ バミ類、ロ ーズマリー	タデ類	5
18	ウラギンシジミ											0						0
19	テングチョウ 本土亜種											0						0
20	アサギマダラ											0	ヨメナ?					1
21	ツマグロヒョウモン					ブッドレア			ブッドレ ア、ランタ ナ			2	キク科園芸 植物、パン ジー、ヤブ ガラシ、ア ベリア	キバナコス モス	キク科の園 芸植物、キ バナコスモ ス	キバナコス モス		4
22	ヒメアカタテハ											0						0
23	ゴマダラチョウ											0						0
24	ルリタテハ 本土亜種											0	クヌギの樹 液					1
25	キタテハ											0						0
26	アカタテハ											0	クヌギの樹 液					1
1目8科26種				2種	3種	4種	2種	2種	5種	3種	0種	—	15種	8種	10種	6種	6種	—

表 7.2. (4) チョウ類が蜜源で利用した植物 (2011 年度)

No.	種名(和名)	プランター設置箇所												既存緑地						
		名古屋 A T ビル	アムナ ットス クエア	閑林工 業本 社	滋賀銀 行名 古屋 支店	名古屋 セン ター ビル 1 F	名古屋 セン ター ビル 屋上	岡谷鋼 機本 社	三井住 友銀行 S M B C パーク 栄	中日ビ ル	名古屋 パナソ ニック ビル	三晃錦 ビル	合計	名城公 園	白川公 園	久屋大 通公 園	オアシ ス 21	下園公 園	合計	
1	イチモンジセセリ				ランタナ		ランタナ、 ブッドレア	ランタナ	ランタナ				4	アベリア、 園芸植 物、ブル ーサルビ ア、アレチ ハナガサ	キバナコ スモス	カラミン サ、千日 紅、コリウ ス、キバ ナコスモ ス	ローズマ リー		4	
2	チャバネセセリ												0	園芸植 物、コスモ ス		キバナコ スモス	ランタナ (?), ロー ーズマリ ー		3	
3	アオスジアゲハ		ランタナ					ヤブガラ シ					2	バラ(黄色)、タン ポポ、シャ リンバイ、ピ ラカンサ ス、ヤブラ ガシ、キ バナコス モス	シロツメク サ、シャリ ンバイ、ピ ラカンサ ス、ヤブラ ガシ、キ バナコス モス	ミント?、 カラミンサ	園芸植物		4	
4	カラスアゲハ 本土亜種												0						0	
5	キアゲハ																		0	
6	ナガサキアゲハ												0						0	
7	クロアゲハ 本土亜種												0						0	

表 7.2. (5) チョウ類が蜜源で利用した植物 (2011 年度)

No.	種名(和名)	プランター設置箇所												既存緑地					
		名古屋 A T ビル	アムナ ットスク エア	閑林工 業本社	滋賀銀 行名古 屋支店	名古屋 センタ ービル 1 F	名古屋 センタ ービル 屋上	岡谷鋼 機本社	S M B C パーク 栄 三井住 友銀行	中日ビ ル	名古屋 パナソ ニック ビル	三晃錦 ビル	合計	名城公 園	白川公 園	久屋大 通公園	オアシ ス 21	下園公 園	合計
8	ナミアゲハ											0	アレチハ ナガ サ？、ヤ ブガラシ、 アベリア、 コスモス、 園芸植物	キク科園 芸植物、 サルビ ア、キバ ナコスモ ス	アベリア、 キバナコ スモス		アガパン サス	4	
9	モンキチョウ											0	タンポポ、 アベリア、 園芸植物	タンポポ				2	
10	キチョウ											0	タンポポ、 ブルーサ ルビア					1	
11	モンシロチョウ											0	タンポポ、 ノアザミ、 ブルーサ ルビア、 アレチハ ナガ サ？、シ ロツメク サ、ミン ト？、カタ バミ類、カ ラミンサ、 アベリア、 ブルーサ ルビア、 園芸植 物、ヤブ ガラシ	アブラナ、 タンポポ、 シロツメク サ、イヌガ ラシ、ヒメ ジョオン、 タネツケ バナ？、 キク科園 芸植物	アブラナ、 キク科植 物(黄 花)、ムラ サキカタ バミ、ヒメ ジョオン、 カラミン サ、セイヨ ウタンポ ポ	カタバミ 類、マリ ーゴール ド	ムラサキカ タバミ	5	
12	ツバメシジミ											0		シロツメク サ				1	

表 7.2. (6) チョウ類が蜜源で利用した植物 (2011 年度)

No.	種名(和名)	プランター設置箇所												既存緑地					
		名古屋 A T ビル	アムナットスクエア	閑林工業本社	滋賀銀行名古屋支店	名古屋センタービル 1 F	名古屋センタービル屋上	岡谷鋼機本社	S M B C パーク栄 三井住友銀行	中日ビル	名古屋パナソニックビル	三晃錦ビル	合計	名城公園	白川公園	久屋大通公園	オアシス 21	下園公園	合計
13	ウラナミシジミ												0	ヒナタイノコヅチ	ヒメジョオン、シロツメクサ	千日紅(？)、セイヨウタンポポ	ローズマリー		4
14	ベニシジミ												0			ヒメジョオン			1
15	ムラサキツバメ												0						0
16	ヤマトシジミ 本土亜種			ランタナ	カタバミ			ランタナ、ブッドレア	シロツメクサ				4	カタバミ、カタバミ類、シロツメクサ、園芸植物、セイトカアワダチソウ	カタバミ類、ヒメジョオン、シロツメクサ、アベリア、キバナコスモス	ミント？、アベリア、カラミンサ、キバナコスモス、千日紅、コリウス、カタバミ類、セイヨウタンポポ	カタバミ類、ローズマリー	キク科園芸植物	5
17	ウラギンシジミ												0						0
18	テングチョウ 本土亜種												0						0
19	ミドリヒョウモン												0	センニンソウ					1
20	ツマグロヒョウモン			ブッドレア									1	コスモス、アレチハナガサ	キバナコスモス、キク科園芸植物	マリーゴールド、樹種不明の花、キバナコスモス			3
21	ヒメアカタテハ												0	ベンケイソウ科園芸植物、ヤブガラシ	キバナコスモス				2

表 7.2. (7) チョウ類が蜜源で利用した植物（2011 年度）

No.	種名(和名)	プランター設置箇所												既存緑地					
		名古屋 A T ビル	アムナ ット スク エア	閑林工 業本 社	滋賀銀 行名 古屋 支店	名古屋 セン ター ビル 1 F	名古屋 セン ター ビル 屋上	岡谷鋼 機本 社	S M B C パ ー ク 栄 三井住 友銀 行	中日ビ ル	名古屋 パナ ソニ ック ビル	三晃錦 ビル	合計	名城公 園	白川公 園	久屋大 通公 園	オアシ ス 21	下園公 園	合計
22	ゴマダラチョウ												0						0
23	ルリタテハ 本土亜種												0	クヌギの 樹液					1
24	キタテハ												0						0
25	アカタテハ												0						0
1目7科25種				2種	2種	0種	1種	3種	2種	0種	0種	0種	－	13種	10種	9種	6種	3種	－

表 7.2. (8) チョウ類が吸蜜で利用した植物 (2012 年度)

No.	科名	種名(和名)	プランター設置箇所															既存緑地					
			名古屋 A Tビル	アムナ ットスク エア	閑林工 業本社	滋賀銀 行名古屋 支店	名古屋 センタ― ビル1F	名日古 動屋ビル 東京デ 海イン グ作業 所	岡谷鋼 機本社	S三井 B住友 C友邦 銀行	中日ビ ル	名古屋 パナソ ニック ビル	三晃社	竹尾名 古屋支 店	ウナゴ スヤテ キイン ッスル	名古屋 西幼稚 園	合計	名城公 園	白川公 園	久屋大 通公園	オアシ ス21	下園公 園	合計
1	セセリチョウ	イチモンジセセリ		ブッド レア、ラ ンタナ、 サルビア		ブッド レア	ブッドレ ア、園芸 種、ラン タナ	ブッドレ ア、園芸 種、ラン タナ	ランタナ	ブッドレ ア				ブッド レア、ブル ーサルビ ア	ブッド レア、ブル ーサルビ ア	ブッド レア	9	ヤグル マギク、ブ ルーサルビ ア、紫色の 花、ラベン ダー、ペン タス、アベ リア、キツ ネノマゴ、 ローズマリ ー	アベリ ア、キバ ナコスモ ス	トレニ ア、キバ ナコスモ ス	ローズ マリ―	ペン タス	5
2		チャバネセセリ					ランタナ	ランタナ		ブルー サルビア	ブッド レア			ブッド レア、ブル ーサルビ ア	サル ビア		6	ピンク 色の花、ペ ンタス、ヘ クソカズ ラ、ブルー サルビア	ニチニ チソウ、サ ルビアの 一種、アベ リア、タン ポポ				2
ー			セセリチョウ科の一種														0						
3	アゲハチョウ	ジャコウアゲハ本土亜種														0							0

表 7.2.(9) チョウ類が吸蜜で利用した植物（2012 年度）

No.	科名	種名(和名)	プランター設置箇所														既存緑地					
			名古屋 A T ビル	アムナ ットスク エア	閑林工 業本社	滋賀銀 行名古屋 支店	名古屋 センタ ービル 1 F	名日古 動屋ビ ル東京 デ海上 ング作 業所	岡谷鋼 機本社	S三井 B住友 C銀行 1行 ク栄	中日ビ ル	名古屋 パナソ ニック ビル	三晃社	竹尾名 古屋支 店	ウナゴ スヤテ キヤン ッスル	名古屋 西幼稚 園	合計	名城公 園	白川公 園	久屋大 通公園	オアシ ス 21	下園公 園
4		アオスジアゲハ		ラン タナ										ヤブ ガラ シ、ラ ンタナ		2	シロツ メク サ、ハ ルジオ ン、ヤ ブガラ シ、ミ ント、ミ ント 類、カ ラミン サ	ハルジ オン、 キバナ コスモ ス、シ ロツメ クサ	ハルジ オン、 ヤブガ ラシ、ア ベリア、 ホルトノ キ、ジ ニアプ ロフェ ージョ ン			3
5		カラスアゲハ本土亜種														0						0
6		ナガサキアゲハ														0	アガパ ンサス	アベリ ア				2
7		クロアゲハ本土亜種														0						0
8		ナミアゲハ		ラン タナ												1	ムラサ キハナ ナ、ハ ルジオ ン、ヤ ブガラ シ	アベリ ア、キ バナコ スモス	タンポ ポ、シロ ツメク サ、ヒメ ジョオ ン、ア ベリア		アガ パン サス	4
9	シロチョウ	モンキチョウ													0	ヒメジョ オン、 ブルー サルビ ア	シロツ メクサ				2	
10		キチョウ													0						0	

表 7.2. (10) チョウ類が吸蜜で利用した植物（2012 年度）

No.	科名	種名(和名)	プランター設置箇所														既存緑地						
			名古屋 A T ビル	アムナ ットスク エア	閑林工 業本社	滋賀銀 行名古屋 支店	名古屋 センタ ービル 1 F	名日古 動屋ビ ル東京 デシー ング作 業所	岡谷鋼 機本社	S三井 B住友 Cパ銀 1行 ク栄	中日ビ ル	名古屋 パナソ ニック ビル	三晃社	竹尾名 古屋支 店	ウナエ ゴステ キヤン ッスル	名古屋 西幼稚 園	合計	名城公 園	白川公 園	久屋大 通公園	オアシ ス 21	下園公 園	合計
11		モンシロチョウ					パセ リ、ア ザミ								アザミ		2	ヒメジョ オン、 タンポ ポ、ハ ルジオ ン、ア ベリア、 ブルー サルビ ア、タイ ム、キク 科園芸 植物、 シロツメ クサ	パンジ ー、ア ブラ ナ、タ ンポ ポ、キ ク科園 芸植 物、シ ロツメ クサ	ハルジ オン、 タンポ ポ、マ リーゴ ールド、 キバナ コスモ ス	マリー ゴール ド		4
12	シジミチョウ	ツバメシジミ															0	シロツメ クサ					1
13		ウラナミシジミ													ブルー サルビ ア		1	ブルー サルビ ア	サルビ アの一 種(ピ ンク色 の花)				2
14		ベニシジミ						マリーゴ ールド、赤い 花(ハーブ 系)							ハルジ オン、 ランタ ナ、ブ ッドレ ア、ブ ルーサ ルビア		2	カラタ チ、シ ロツメ クサ、ブ ルーサ ルビ ア、ロ ーズマ リー、ワ レモコ ウ？		マリー ゴール ド			2
15			ムラサキツバメ															0					

表 7.2. (11) チョウ類が吸蜜で利用した植物（2012 年度）

No.	科名	種名(和名)	プランター設置箇所															既存緑地					
			名古屋 ATビル	アムナ ットスク エア	閑林工 業本社	滋賀銀 行名古 屋支店	名古屋 センタ ービル 1F	名日古 動屋ビ ル東デ 海イ上 ング作 業所	岡谷鋼 機本社	S三 M井 B住 C友 パ銀 1行 ク栄	中日ビ ル	名古屋 パナソ ニック ビル	三晃社	竹尾名 古屋支 店	ウナ エゴ スヤ テキ ヤン ッス ル	名古屋 西幼稚 園	合計	名城公 園	白川公 園	久屋大 通公園	オアシ ス21	下園公 園	合計
16		ヤマトシジミ本土亜種		オニ タビ ラコ			ランタ ナ、ブ ッドレ ア、キ ク科の 雑草 (黄色 の花)	赤い花(ハ ーブ系)、 マリーゴ ールド、園 芸種、黄色 い花の園 芸種		ランタナ			アロ マム (キク 科園 芸植 物)、 ブッド レア	カタ バミ	ネジバ ナ、サ ルビ ア、ブ ッドレ ア	ブッド レア	8	シロツメ クサ、 カタバ ミ、レモ ンタイ ム、ブル ーサル ビア、ヒメ ジョオン ?、カタバ ミ類	アブラ ナ、カ タバミ 類、カ タバミ、 キバナ コスモ ス、タ ンポポ	タンポ ポ、イ ヌガラ シ、カ タバミ 類、ア ベリア、ト レニア、ジ ニアブ ロフュ ージョ ン、キ バナコ スモ ス、キ ク科園 芸植 物	ローズ マリー	ペン タス、 キク 科園 芸植 物	5
17	ウラギンシジミチョウ	ウラギンシジミ															0						0
18	タテハチョウ	ツマグロヒョウモン			ブッド レア		アベリ ア			ランタ ナ、ブッ ドレア					ヤブガ ラシ、 ランタ ナ	ブッド レア	5		キバナ コスモ ス、ア ベリア	マリー ゴールド、 タンポ ポ、黄色 い花、キ バナコ スモ ス、ジ ニアブ ロフュ ージョ ン			2

表 7.2. (12) チョウ類が吸蜜で利用した植物（2012 年度）

No.	科名	種名(和名)	プランター設置箇所															既存緑地					
			名古屋 A T ビル	アムナ ット スクエ ア	閑林工 業本 社	滋賀銀 行名 古屋 支店	名古屋 セン ター ビル 1 F	名日 古動 屋ビ 東ル 京デ 海イ 上ン グ 作 業 所	岡 谷 鋼 機 本 社	S三 M井 B住 C友 パ銀 l行 ク 栄	中 日 ビ ル	名 古 屋 パ ナ ソ ニ ッ ク ビ ル	三 晃 社	竹 尾 名 古 屋 支 店	ウナ エゴ スヤ テキ イヤ ンッ ス ル	名 古 屋 西 幼 稚 園	合 計	名 城 公 園	白 川 公 園	久 屋 大 通 公 園	オ ア シ ス 21	下 園 公 園	合 計
19		ゴマダラチョウ															0	クヌギ の樹液					1
20		ルリタテハ本土亜種															0	クヌギ の樹液					1
21		キタテハ															0	クヌギ の樹液					1
22		アカタテハ															0	チャイ ブ、クヌ ギの樹 液					1
23	ジャノメチョウ	クロコノマチョウ															0						0
7科23種			0種	4種	1種	1種	5種	4種	1種	4種	1種	0種	1種	3種	8種	3種	－	15種	10種	7種	3種	3種	－

注 1) 種名及び分類順は「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（環境庁、1995）に従った。

7.3 各調査地におけるチョウ類の行動

(1) 調査地に対する利用の行動について

各調査地に対するチョウ類の利用（「通過・とまり」「吸蜜等」「繁殖」）について、3 か年（2010～2012 年度）のデータを用いて整理した。
整理した結果を表 7.3.1.に示す。

表 7.3. (1) 各調査地におけるチョウ類の行動（2010 年度～2012 年度）

利用	緑地タイプ	コア緑地					プランター1F										プランター屋上				
		名城公園	白川公園	久屋大通公園	オアシス21	下園公園	名古屋ATビル	アムナット	滋賀銀行	東京海上火災	名古屋センタービル1F	岡谷鋼機	三井住友銀行	中日ビル	竹尾	キャッスルホテル	名古屋西幼稚園	関林工業	名古屋センタービル屋上	Panasonic	三晃社
通過、とまり	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ
	アカタテハ	アカタテハ	アカタテハ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	セセリチョウ科の一種	セセリチョウ科の一種	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	ツマクロヒョウモン	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	
	アサギマダラ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	ウラナミシジミ	ウラギンシジミ	ウラナミシジミ	モンシロチョウ	チャバネセセリ	ツマクロヒョウモン	ナミアゲハ	チャバネセセリ	チャバネセセリ	ツマクロヒョウモン	ツマクロヒョウモン	ツマクロヒョウモン	ウラナミシジミ	ナミアゲハ	チャバネセセリ	ナミアゲハ	ナミアゲハ	
	イチモンジセセリ	ウラギンシジミ	ウラギンシジミ	キチョウ	ナミアゲハ	ヤマトシジミ	ナミアゲハ	ナミアゲハ	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ	ナミアゲハ	ツマクロヒョウモン	ツマクロヒョウモン	モンシロチョウ	ツバメシジミ	ツバメシジミ	ナミアゲハ	ナミアゲハ	ナミアゲハ	ヤマトシジミ	
	ウラギンシジミ	ウラナミシジミ	ウラナミシジミ	チャバネセセリ	モンシロチョウ		モンシロチョウ	ヤマトシジミ			モンシロチョウ	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ	ナミアゲハ	ヤマトシジミ	ツマクロヒョウモン	ヤマトシジミ	ペニシジミ	ヤマトシジミ		
	ウラナミシジミ	キタテハ	キチョウ	ツマクロヒョウモン	ヤマトシジミ		ヤマトシジミ			ヤマトシジミ				モンシロチョウ		ナミアゲハ		ヤマトシジミ			
	カラスアゲハ	キチョウ	ジャコウアゲハ	ナミアゲハ												ナミアゲハ		ペニシジミ			
	キタテハ	クロアゲハ	セセリチョウ科の一種	モンシロチョウ												モンシロチョウ		ヤマトシジミ			
	キチョウ	チャバネセセリ	チャバネセセリ	ヤマトシジミ												ヤマトシジミ					
	クロアゲハ	ツバメシジミ	ツマクロヒョウモン	ルリタテハ																	
	クロコノマチョウ	ツマクロヒョウモン	ナガサキアゲハ																		
	ゴマダラチョウ	ナガサキアゲハ	ナミアゲハ																		
	ジャコウアゲハ	ナミアゲハ	ペニシジミ																		
	チャバネセセリ	ヒメアカタテハ	モンシロチョウ																		
	ツバメシジミ	ムラサキツバメ	ヤマトシジミ																		
	ツマクロヒョウモン	モンキチョウ																			
	テングチョウ	モンシロチョウ																			
	ナガサキアゲハ	ヤマトシジミ																			
	ナミアゲハ																				
	ヒメアカタテハ																				
	ペニシジミ																				
	ミドリヒョウモン																				
ムラサキツバメ																					
モンキアゲハ																					
モンキチョウ																					
モンシロチョウ																					
ヤマトシジミ																					
ルリタテハ																					
吸蜜・吸水	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	アオスジアゲハ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	アオスジアゲハ	イチモンジセセリ	チャバネセセリ	イチモンジセセリ		ヤマトシジミ
	アカタテハ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ		ナミアゲハ	イチモンジセセリ	チャバネセセリ	チャバネセセリ	イチモンジセセリ	キチョウ	チャバネセセリ	チャバネセセリ	イチモンジセセリ	ツマクロヒョウモン	ツマクロヒョウモン	ツマクロヒョウモン			
	アサギマダラ	ウラギンシジミ	ウラナミシジミ	ウラナミシジミ	ウラナミシジミ		ヤマトシジミ	モンシロチョウ	ツマクロヒョウモン	ツマクロヒョウモン	ヤマトシジミ	ツマクロヒョウモン	ツマクロヒョウモン	ツマクロヒョウモン	ウラナミシジミ	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ			
	イチモンジセセリ	ウラナミシジミ	キタテハ	キチョウ	ナガサキアゲハ			ヤマトシジミ	ナミアゲハ	ナミアゲハ		ツマクロヒョウモン	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ	キチョウ						
	ウラギンシジミ	チャバネセセリ	キチョウ	ツマクロヒョウモン	ナミアゲハ				ペニシジミ	ヤマトシジミ					チャバネセセリ						
	ウラナミシジミ	ツバメシジミ	ジャコウアゲハ	ペニシジミ	モンシロチョウ				ヤマトシジミ						ツマクロヒョウモン						
	キタテハ	ツマクロヒョウモン	チャバネセセリ	モンシロチョウ	ヤマトシジミ										ペニシジミ						
	キチョウ	ナミアゲハ	ツマクロヒョウモン	ヤマトシジミ											モンシロチョウ						
	ゴマダラチョウ	ヒメアカタテハ	ナミアゲハ												ヤマトシジミ						
	チャバネセセリ	モンキチョウ	ペニシジミ																		
	ツバメシジミ	モンシロチョウ	モンシロチョウ																		
	ツマクロヒョウモン	ヤマトシジミ	ルリタテハ	ヤマトシジミ																	
	ナガサキアゲハ																				
	ナミアゲハ																				
	ヒメアカタテハ																				
	ペニシジミ																				
	ミドリヒョウモン																				
	モンキチョウ																				
	モンシロチョウ																				
	ヤマトシジミ																				
	ルリシジミ																				
	ルリタテハ																				
繁殖	アオスジアゲハ	イチモンジセセリ	アオスジアゲハ	ツマクロヒョウモン	ムラサキツバメ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	イチモンジセセリ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	ナミアゲハ	チャバネセセリ	アオスジアゲハ
	アカタテハ	クロアゲハ	クロアゲハ	ヤマトシジミ	モンシロチョウ	ツマクロヒョウモン	イチモンジセセリ	ツマクロヒョウモン	チャバネセセリ	イチモンジセセリ	ナミアゲハ	ナミアゲハ	チャバネセセリ	ツマクロヒョウモン	ナミアゲハ	チャバネセセリ	チャバネセセリ	モンシロチョウ	ツマクロヒョウモン	ツマクロヒョウモン	
	イチモンジセセリ	チャバネセセリ	ジャコウアゲハ		ヤマトシジミ	ナミアゲハ	ツマクロヒョウモン	ナミアゲハ	ツマクロヒョウモン	モンシロチョウ	モンシロチョウ	モンシロチョウ	ツマクロヒョウモン	ナミアゲハ	モンシロチョウ	ナミアゲハ	ナミアゲハ		ナミアゲハ	ナミアゲハ	
	ウラギンシジミ	ナガサキアゲハ	チャバネセセリ			モンシロチョウ	ナミアゲハ	モンシロチョウ	ナガサキアゲハ	ツマクロヒョウモン	ナミアゲハ	ナミアゲハ	ナミアゲハ	モンシロチョウ	ヤマトシジミ	ナミアゲハ	ヤマトシジミ		ヤマトシジミ	ヤマトシジミ	
	カラスアゲハ	ナミアゲハ	ナガサキアゲハ			ヤマトシジミ	モンシロチョウ	ヤマトシジミ	ナミアゲハ	ナミアゲハ						モンシロチョウ					
	キアゲハ	モンシロチョウ	ナミアゲハ				ヤマトシジミ		ペニシジミ	モンシロチョウ											
	クロアゲハ	ヤマトシジミ	モンシロチョウ						モンシロチョウ	ヤマトシジミ											
	チャバネセセリ		ヤマトシジミ						ヤマトシジミ												
	ツマクロヒョウモン																				
	ツバメシジミ																				
	ナガサキアゲハ																				
	ナミアゲハ																				
	ペニシジミ																				
	ムラサキツバメ																				
	モンシロチョウ																				
	ヤマトシジミ																				

(2)チョウ類の利用の傾向について

表 7.3.1.で整理した結果について、**「地上部（プランター1F）、屋上（プランター屋上）、コア緑地」**に分け、チョウ類の利用の傾向をみた。
チョウ類による調査地の利用の傾向について、以下と表 7.3.(2)に示す。

①アオスジアゲハ、ナミアゲハ、モンシロチョウ

アオスジアゲハ、ナミアゲハ、モンシロチョウの**3種**は、プランター屋上では吸蜜・吸水を確認していないが、繁殖を確認した。
このため、以下の傾向を推測した。

- ・屋上まで吸蜜や吸水に飛来するような行動はあまりとらない。
- ・食樹・食草があれば屋上まで飛来する。

②イチモンジセセリ

イチモンジセセリは、プランター屋上で吸蜜・吸水を確認したが、繁殖を確認できていない。
このため、以下の傾向を推測した。

- ・屋上まで繁殖に飛来するような行動はあまりとらない。

③ツマグロヒョウモン

ツマグロヒョウモンは、屋上で通過・とまりを確認していないことから、以下の傾向を推測した。

- ・ツマグロヒョウモンは、漫然と飛び回ることとはせず、吸蜜や産卵等の目的を持って飛翔していると考えられる。

④チャバネセセリ、ヤマトシジミ

チャバネセセリ、ヤマトシジミの**2種**は、プランター1Fと屋上で、すべての利用を確認した。このため、以下の傾向を推測した。
・チャバネセセリ、ヤマトシジミは、漫然と飛び回りながら、プランター1Fのみでなく、屋上まで吸蜜や産卵等のために飛来をする。

⑤ベニシジミ

ベニシジミは、プランター屋上で吸蜜・吸水、繁殖を確認していないことから、以下の傾向を推測した。

- ・屋上まで吸蜜や吸水、繁殖に飛来するような行動はあまりとらない。

⑥「通過・とまり」、「吸蜜・吸水」、「繁殖」のすべてにおいて、コア緑地＞プランター1F＞プランター屋上という関係が成り立って

いることにより、既存緑地がソース個体群であり、プランター1Fとプランター屋上がシンク個体群であると考えられた。

既存緑地で確認されず、プランターでのみ確認された種が1種もないことから上記の関係が成り立っていると言える。

⑦名古屋市中心部において、新たな地点を積極的に利用すると考えられる種（先駆性種？）は、3年間の調査結果より、イチモンジセセリ、チャバネセセリ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン、チャバネセセリの7種を挙げることができる。（ベニシジミも可能性がある）

なお、これらの種については、地域性があると考えられる。他地域の類似事例と比較検討を行うことにより、先駆性種についての情報を蓄積していくことが望ましいと考えられる。

先駆性種以外で、誘致の可能性を考えた場合、名古屋中心部においてはウラナミシジミ（本種が好むマメ科作物を植えるなどにより）が比較的容易に誘致できる可能性があると思われる。

表 7.3. (2) チョウ類の利用の傾向について

緑地タイプ 利用	コア緑地	プランター1F	プランター屋上
通過、とまり	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ
	アカタテハ		
	アサギマダラ		
	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ
	ウラギンシジミ	ウラナミシジミ	
	ウラナミシジミ		
	カラスアゲハ		
	キタテハ		
	キチョウ		
	クロアゲハ		
	クロノマチョウ		
	ゴマダラチョウ		
	ジャコウアゲハ		
	セセリチョウ科の一種	セセリチョウ科の一種	
	チャバネセセリ	チャバネセセリ	チャバネセセリ
	ツバメシジミ	ツマグロヒョウモン	
	ツマグロヒョウモン		
	デングチョウ		
	ナガサキアゲハ	ナミアゲハ	ナミアゲハ
	ナミアゲハ		
	ヒメアカタテハ	ベニシジミ	ベニシジミ
	ベニシジミ		
吸蜜・吸水	ミドリヒョウモン		
	ムラサキツバメ		
	モンキアゲハ		
	モンキチョウ		
	モンシロチョウ	モンシロチョウ	
	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ
	ルリタテハ	ルリタテハ	
	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	
	アカタテハ		
	アサギマダラ		
	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ
	ウラギンシジミ	ウラナミシジミ	
	ウラナミシジミ		
	キタテハ	キチョウ	
	キチョウ		
	ゴマダラチョウ		
	ジャコウアゲハ		
	チャバネセセリ	チャバネセセリ	チャバネセセリ
	ツバメシジミ		
	ツマグロヒョウモン	ツマグロヒョウモン	ツマグロヒョウモン
繁殖	ナガサキアゲハ		
	ナミアゲハ	ナミアゲハ	
	ヒメアカタテハ		
	ベニシジミ	ベニシジミ	
	ミドリヒョウモン		
	モンキチョウ		
	モンシロチョウ	モンシロチョウ	
	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ
	ルリシジミ		
	ルリタテハ		
	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ
	アカタテハ		
	イチモンジセセリ	イチモンジセセリ	
	ウラギンシジミ		
	カラスアゲハ		
	キアゲハ		
	クロアゲハ		
	ジャコウアゲハ		
	チャバネセセリ	チャバネセセリ	チャバネセセリ
	ツマグロヒョウモン	ツマグロヒョウモン	ツマグロヒョウモン
	ツバメシジミ		
	ナガサキアゲハ	ナガサキアゲハ	
	ナミアゲハ	ナミアゲハ	ナミアゲハ
	ベニシジミ	ベニシジミ	
	ムラサキツバメ		
	モンシロチョウ	モンシロチョウ	モンシロチョウ
	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ

7.4 調査地におけるチョウ類の種数と多様度指数 Bψ の関係

3 カ年（2010～2012 年度）の結果より、調査対象地における確認種数と多様度指数 Bψ の関係を図 7.44 に示す。

確認種類数をみると、既存緑地では名城公園（30 種）が最も多く、次いで白川公園（18 種）、久屋大通（17 種）、オアシス 21（12 種）、下園公園（9 種）の順に多かった。プランター設置箇所ではキャッスルホテル（11 種）が最も多く、次いで東京海上火災、三井住友銀行、名古屋西幼稚園（8 種）の順に多かった。

多様度指数をみると、既存緑地では名城公園（0.891）が最も高く、次いで白川公園（0.762）、久屋大通（0.720）、下園公園（0.594）、オアシス 21（0.577）の順に高かった。名城公園は確認種数と多様度指数がほぼ比例し、多様性の高さと希少種の多さが比例していた。他の緑地（白川公園、久屋大通、オアシス 21、下園公園）はいずれも確認種数よりも多様度指数が高く、稀少性が高いことを示した。

プランター設置箇所ではキャッスルホテル（0.560）が最も高く、次いで東京海上火災（0.425）、名古屋西幼稚園（0.369）、閑林工業（0.289）の順に高かった。キャッスルホテル、東京海上火災、西幼稚園、閑林工業では、他のプランター設置箇所で確認されていない種（キャッスルホテルではルリシジミ、ウラナミシジミ、東京海上火災・閑林工業ではベニシジミ、西幼稚園ではルリタテハ等）が確認されているため、確認種数よりも多様度指数が高くなり、稀少性が高いことを示した。特にキャッスルホテルは名城公園に近いことから、他のプランター設置箇所では確認されていない種が出現しやすいと考えられた。これらを除く他のプランター設置箇所は、確認種数と多様度指数が概ね比例していた。

●多様度指数 Bψ

多様度指数 Bψ は、複数のサンプルの在・不在データから多様度を導き出す解析方法である。

原理は、「多様性の高さと希少種の多さは正の相関関係にある」という考え方をもとに、全サンプル内における確認頻度が少ない種類（希少種）の数に着目し、サンプルごとで確認された希少種の種類数は、それぞれの生物相の多様性を反映しているというものである。

解析方法の概要は、各サンプルで確認された種類に、全サンプル内での出現頻度に応じて重みづけのされた数値を与える。その結果、サンプルごとに集計された値は、確認頻度の低い種類の出現状況を表す。前述のように、これらは各サンプルにおける生物相の多様性を反映したものである。

数式は以下のとおりである。

$$B\psi = 1 - \left[L \left\{ \sum (N_i / \sum N_i) \right\} / \sum N_j \right]$$

j：種類の番号
i：サンプルの番号
L：全サンプル数

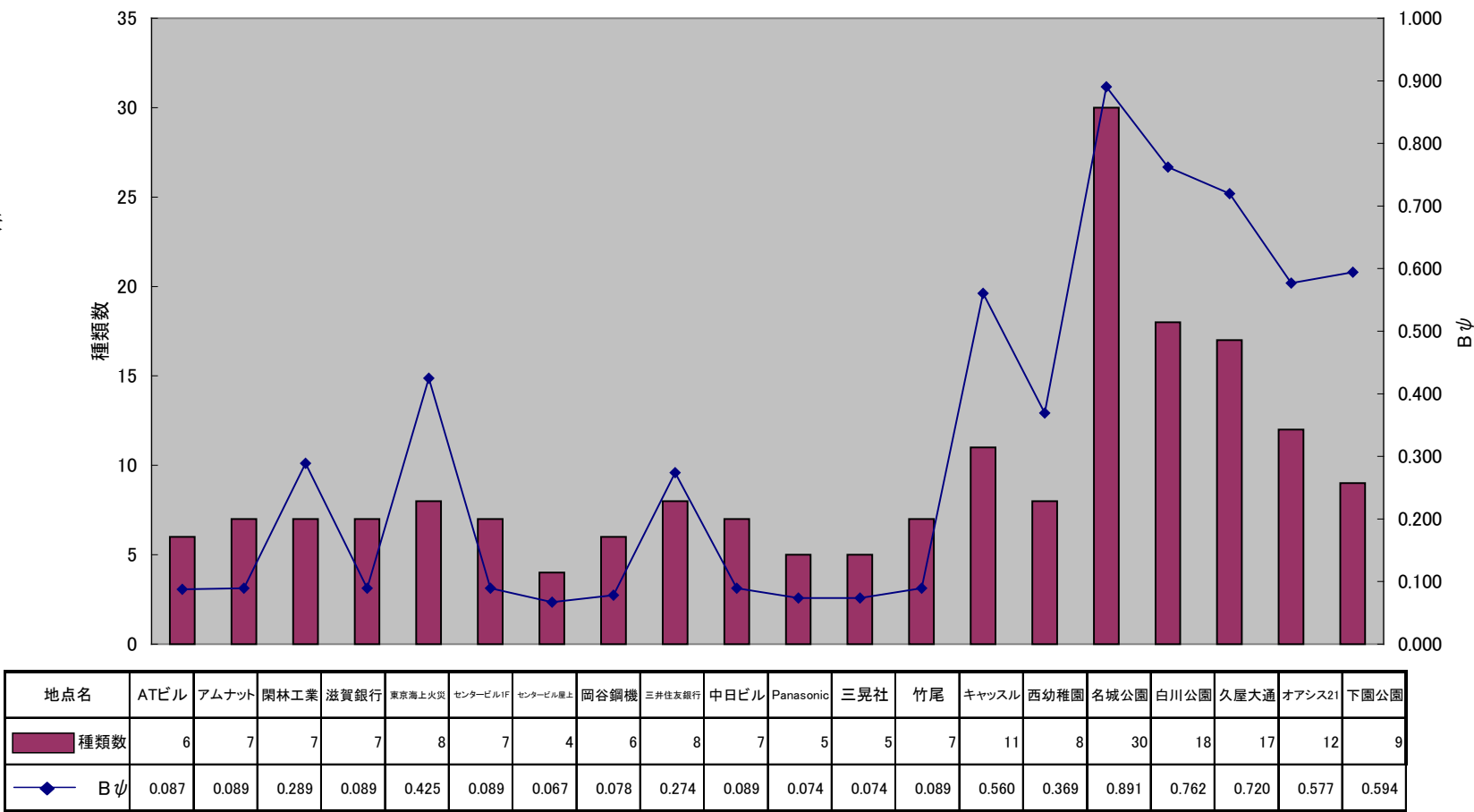


図 7.4 調査対象地における確認種類数と多様度指数 Bψ の関係

7.5 調査地ごとのチョウ類群集の特徴

属性からみたそれぞれの調査地のチョウ類群集の特徴について、確認した成虫の種数と個体数より整理した。整理した図は、次項に示す。

属性をみると、訪花性・定住性がほぼ 100%、森林性・日華性が概ね 50～0%、ササ食・1 化性が 0%に近い値であった。このため、図は三角形～直線状となり、三角形を押しつぶしたような形となった地点が多かった。種数と個体数の図を比較すると、同じような形となっている地点がほとんどであったが、森林性の値について、個体数の方がやや小さくなっている傾向がみられた。

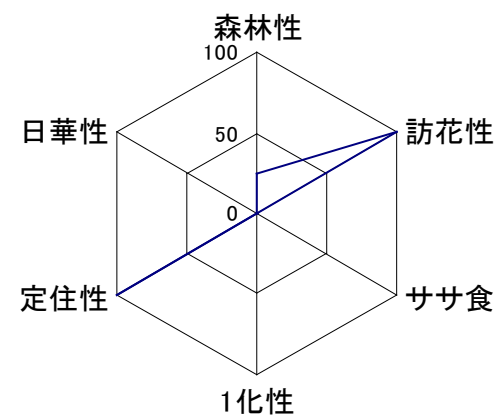
石井（2012）によると、「都市域におけるチョウ類の特徴は、言うまでもなく市街地の拡大による生息場所の破壊や減少によるものである。そして、都市化により姿を消すチョウの性格として定住性、1 化性、自然植物食性、森林性などがあげられる」とされている。

《属性について》

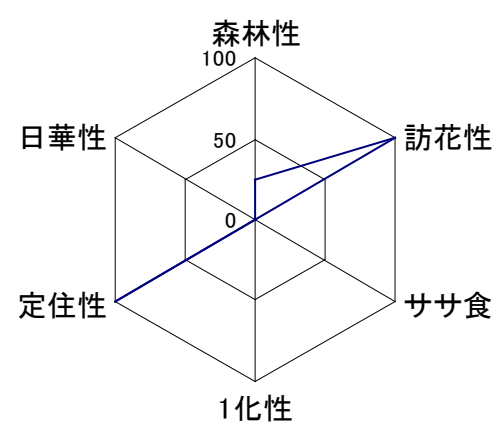
- 属性は、森林性、訪花性、ササ食、1 化性、定住性、日華性を取り上げた。
- 森林性
- 森林的環境を好む種。日本は森林性チョウ類が豊富であるとされており、その根拠は日本の原始的自然が森林植物によって覆われていたとするもので、ゴマダラチョウ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ等がいる。その一方、小規模ながら、草原、河川氾濫原、湿原等の草地的環境も存在し、そのような環境を選択するチョウ類もいる。このような草本性チョウ類としてチャバネセセリ、イチモンジセセリ、ヤマトシジミ等がいる。
- 訪花性
- 多くのチョウ類が花の蜜を吸うため、訪花性といえる。他には、腐った果実や動物の糞等集まるジャノメチョウ類、タテハチョウ類や、樹液に集まるルリタテハ等がいる。
- ササ食
- ササ類を餌とするチョウ類。ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ等がいる。今回の現地調査ではササ食の種は確認されなかった。
- 1 化性
- 昆虫が 1 年間に繰り返す世代の数は、種によって概ね決まっており、年発生回数が 1 回の種を 1 化性と呼ぶ。現地調査で確認された種では、テングチョウ、ミドリヒョウモンがいる。
- 定住性
- その土地（地方）にすみついている種（土着種）を表した。これに対してその土地で発見されていても、すみついていない種を遇産種といい、迷チョウ、遇産チョウと呼ぶ。
- 例えば、ウラナミシジミは九州から関東地方南部の温暖な地域で越冬し、発生を繰り返しながら、分布を北へ拡大させ、秋には東北地方や北海道でも見られるようになる。ウラナミシジミは、九州から関東地方南部の温暖な地域では土着種であり、東北地方や北海道では迷チョウとなる。
- 今回の現地調査では多くのチョウ類が定住性と考えられた。しかし、確認頻度が少ない、繁殖が確認されていない等により、10 種（ジャコウアゲハ、モンキアゲハ、キアゲハ、ルリシジミ、ウラナミシジミ、テングチョウ、アサギマダラ、ミドリヒョウモン、ヒメアカタテハ、クロコノマチョウ）を偶産種として扱った。
- 日華性
- ネパール、ヒマラヤから中国南西部をへて台湾、日本に至る地域を中心に分布する種。日本にのみ分布する固有種の多くはこの系統の分類群と考えられる。石井（2012）によると「里山のチョウ類を分布という観点から見ると、日本固有種あるいは日本固有亜種を含む東アジアの要素（日華区系）が多いという特徴がある」とされており、一方で「東南アジアの熱帯から亜熱帯に分布の中心をもつ南方系チョウ類の北方への分布拡大」を挙げられている。

※引用・参考とした文献・資料

「白水隆著（2007）日本産蝶類標準図鑑（㈱学習研究社）」、「日本チョウ類保全協会編（2007）フィールドガイド 日本のチョウ（㈱誠文堂親光社）」、「日本環境動物昆虫学会編（1988）チョウの調べ方（㈱文教出版）」、「藤岡知夫著（1977）検索図鑑 日本の蝶（㈱主婦と生活社）」、「石井実（2012）里山の崩壊で急速に衰退する日本的なチョウ類（一般財団法人大阪防疫協会 機関誌 156 号）」、「夏原由博（2000）都市近郊の環境頻度に沿ったチョウ群集の変化（ランドスケープ研究）」、「田中蕃（1989）チョウの自然誌（18）環境指標としてのチョウ（日本の生物 3）」

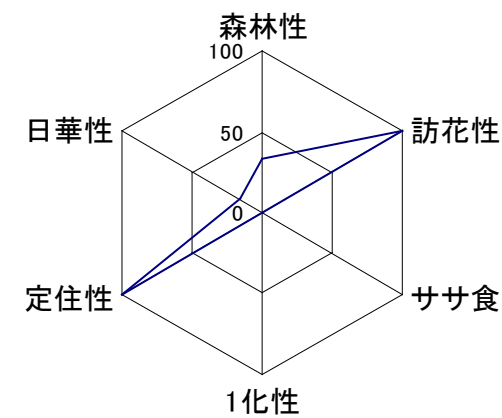


種数からみた割合 (%)

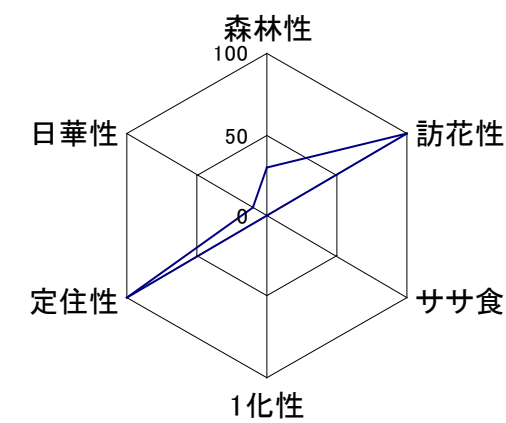


個体数からみた割合 (%)

名古屋 AT ビル (2010～2012 年)

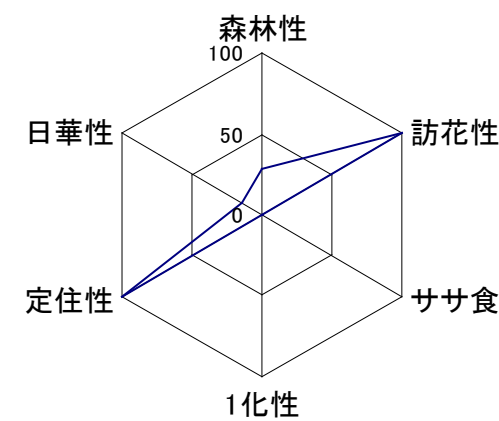


種数からみた割合 (%)

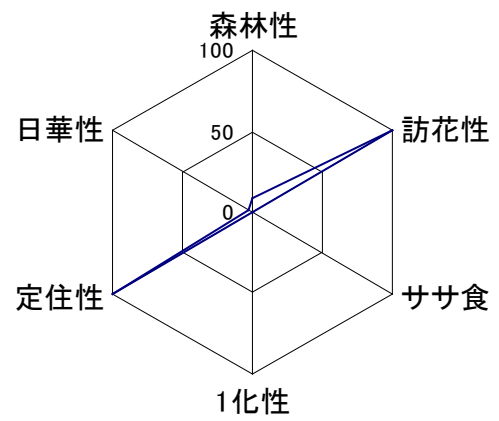


個体数からみた割合 (%)

アムナットスクエア (2010～2012 年)

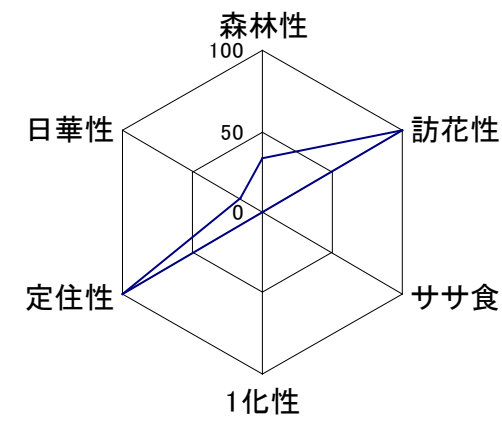


種数からみた割合 (%)

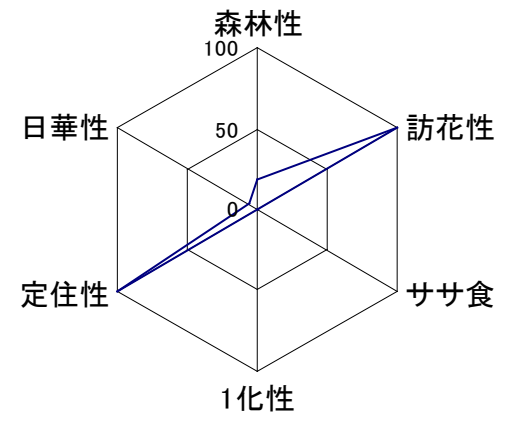


個体数からみた割合 (%)

閑林工業本社 (2010～2012 年)

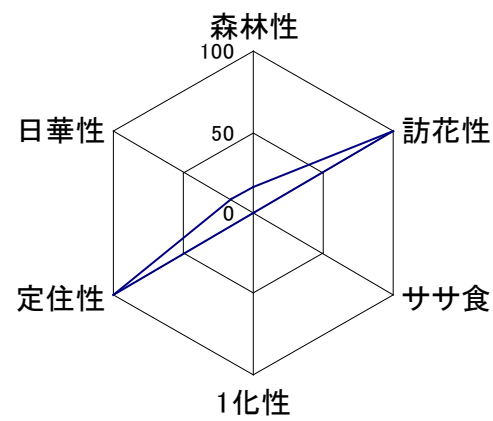


種数からみた割合 (%)

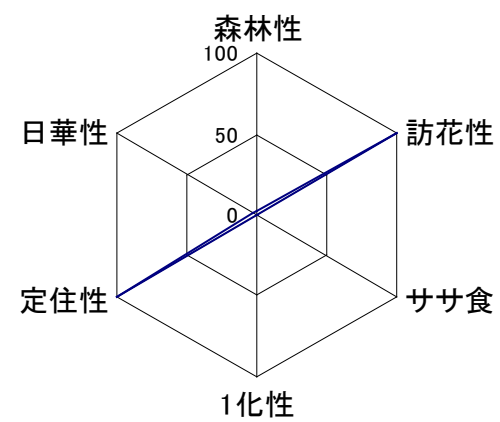


個体数からみた割合 (%)

滋賀銀行名古屋支店 (2010～2012 年)

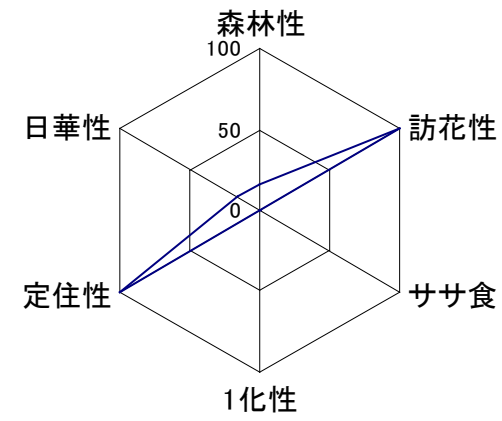


種数からみた割合 (%)

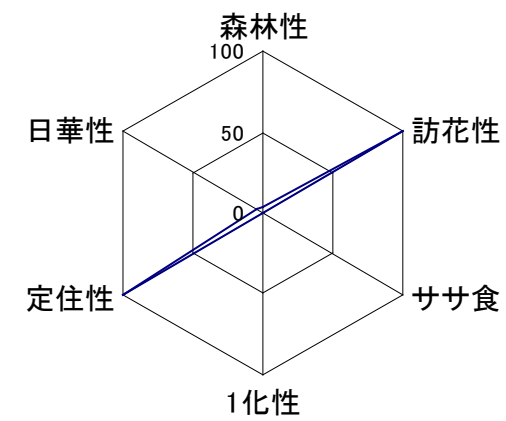


個体数からみた割合 (%)

名古屋東京海上日動ビルディング (2010、2012 年)

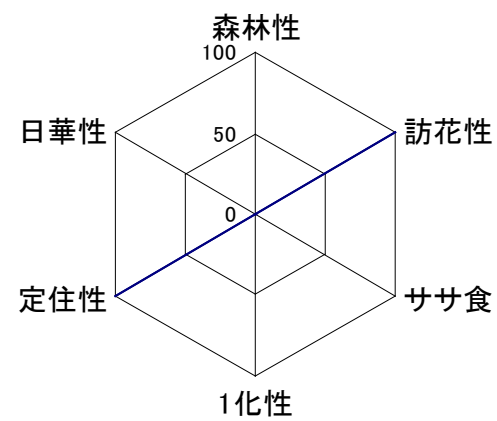


種数からみた割合 (%)

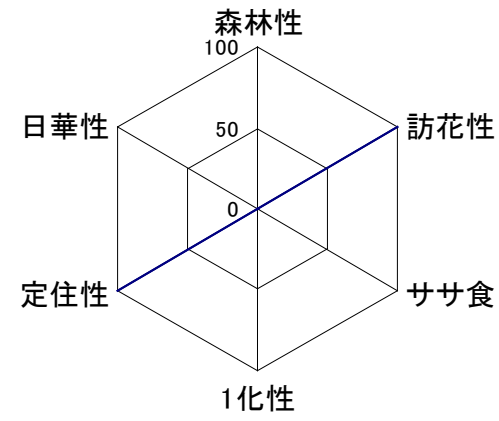


個体数からみた割合 (%)

名古屋センタービル 1F (2010～2012 年)

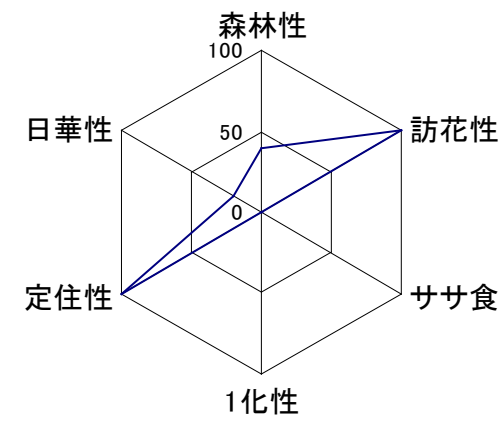


種数からみた割合 (%)

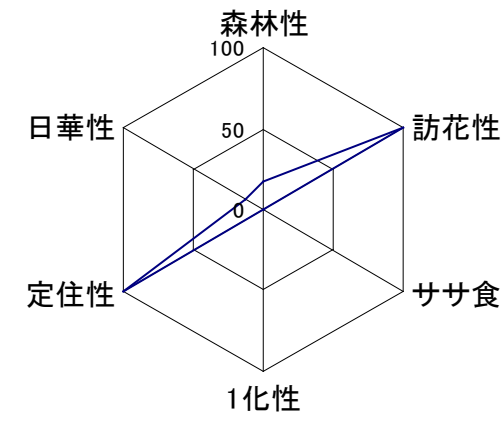


個体数からみた割合 (%)

名古屋センタービル屋上 (2011 年)

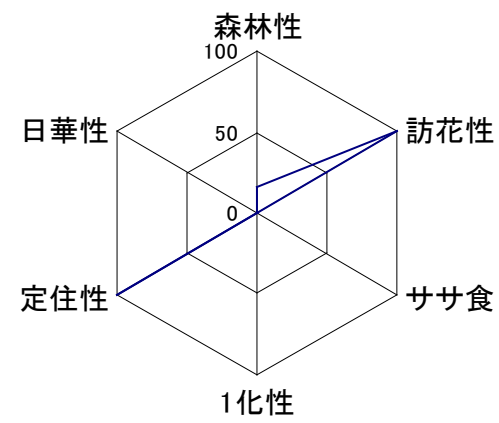


種数からみた割合 (%)

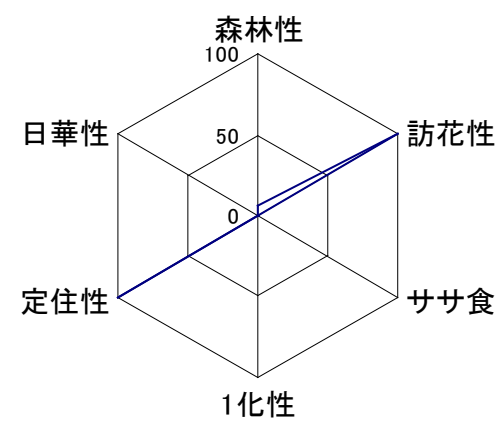


個体数からみた割合 (%)

岡谷鋼機本社 (2010～2012 年)

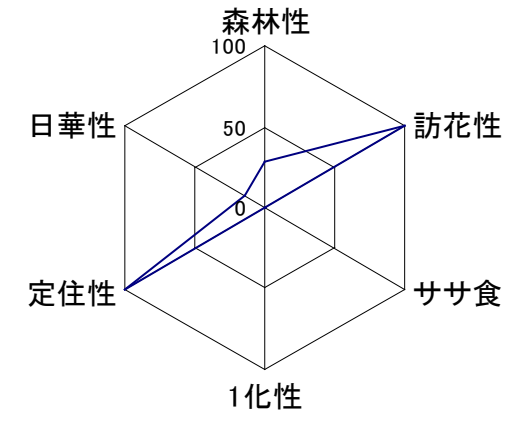


種数からみた割合 (%)

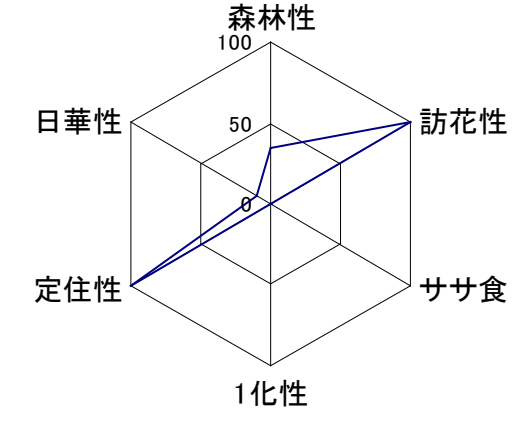


個体数からみた割合 (%)

三井住友銀行 SMBC パーク 栄 (2010～2012 年)

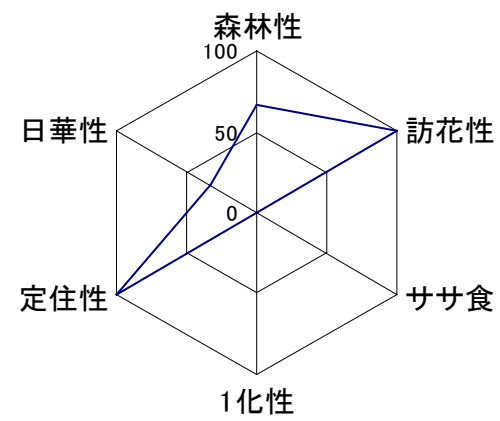


種数からみた割合 (%)

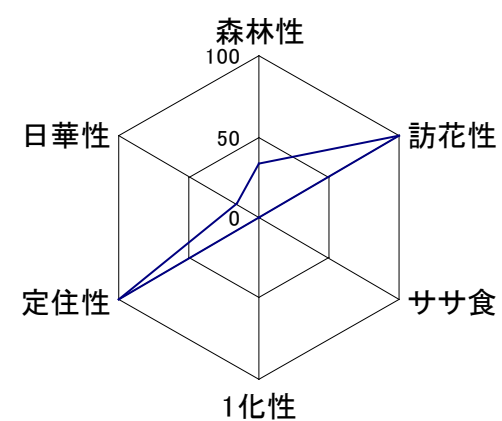


個体数からみた割合 (%)

中日ビル (2010～2012 年)

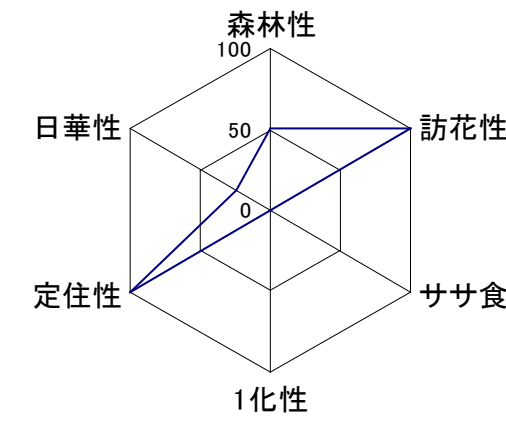


種数からみた割合 (%)

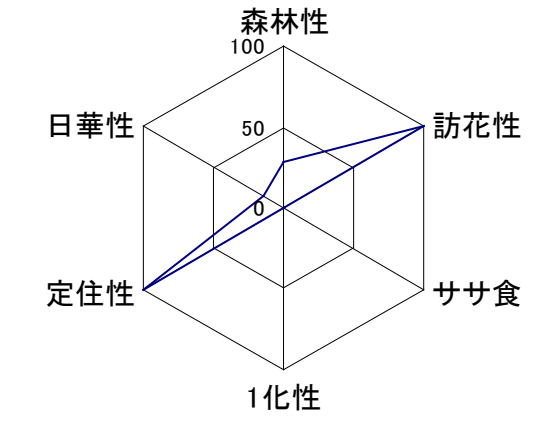


個体数からみた割合 (%)

名古屋パナソニックビル (2010～2012 年)

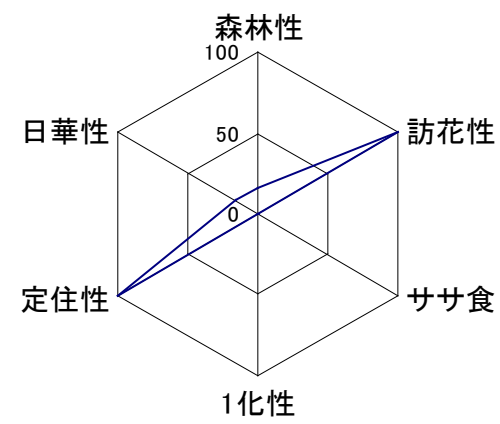


種数からみた割合 (%)

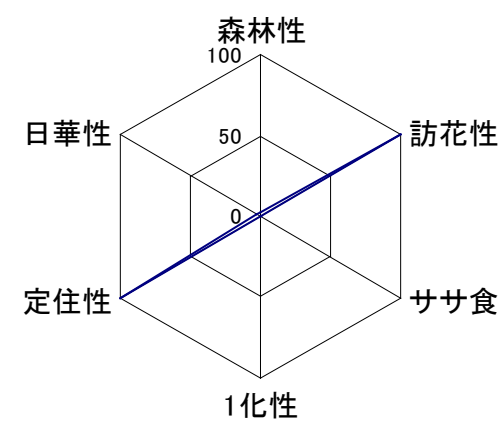


個体数からみた割合 (%)

三晃錦ビル (2011～2012 年)

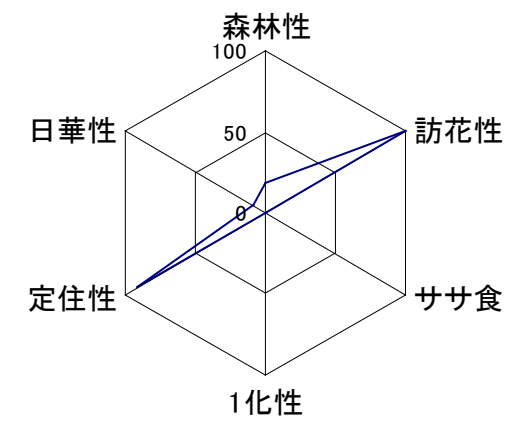


種数からみた割合 (%)

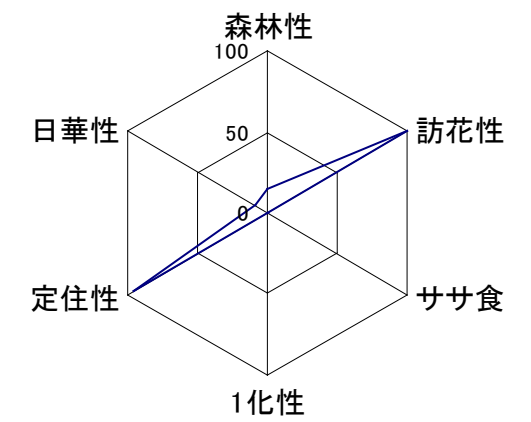


個体数からみた割合 (%)

竹尾 名古屋支店 (2012 年)

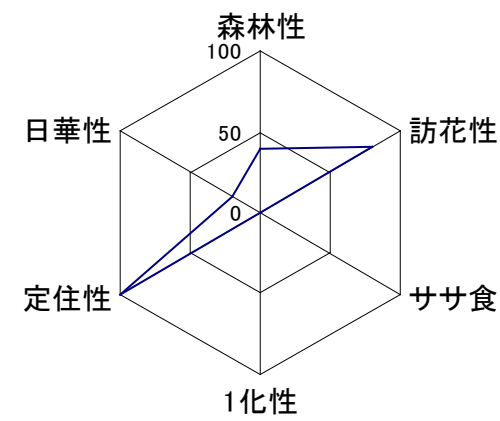


種数からみた割合 (%)

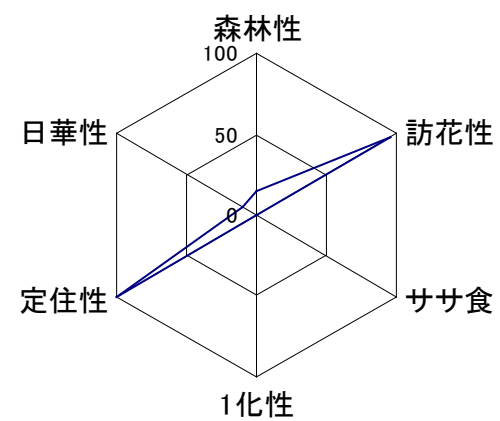


個体数からみた割合 (%)

ウェスティンナゴヤキャッスル (2012 年)

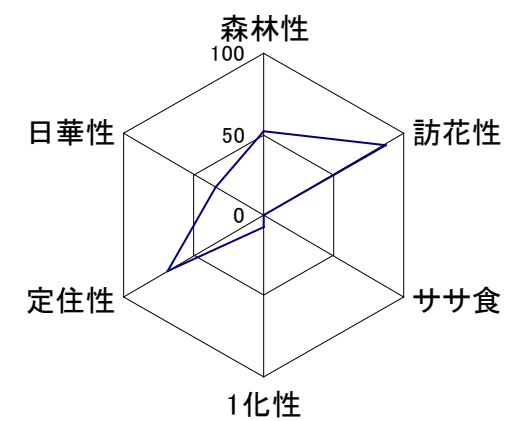


種数からみた割合 (%)

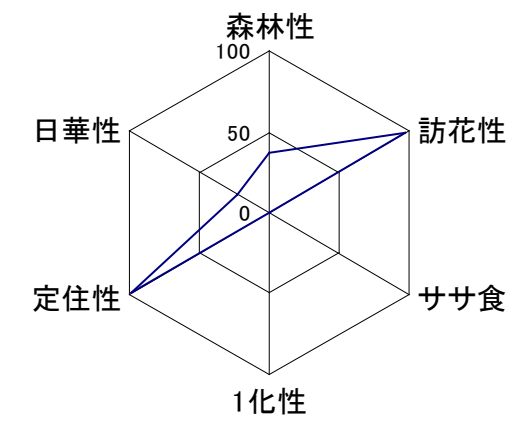


個体数からみた割合 (%)

名古屋西幼稚園 (2012 年)

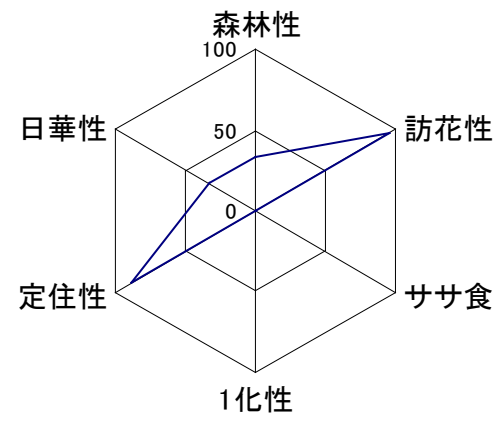


種数からみた割合 (%)

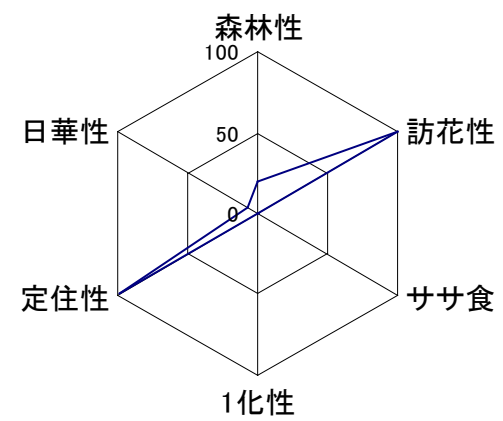


個体数からみた割合 (%)

名城公園 (2010～2012 年)

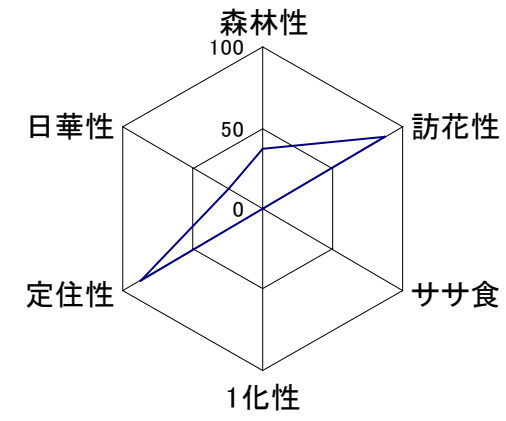


種数からみた割合 (%)

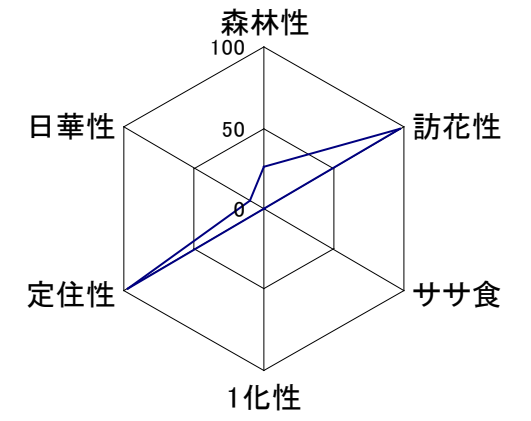


個体数からみた割合 (%)

白川公園 (2010～2012 年)

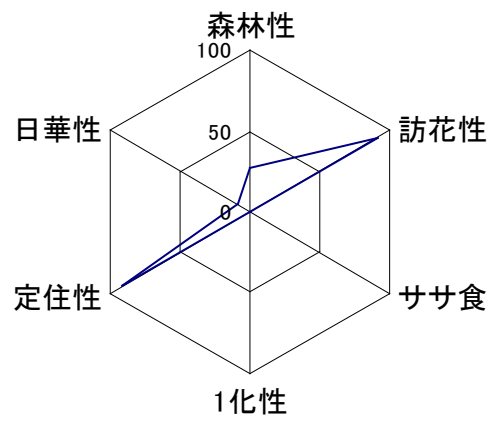


種数からみた割合 (%)

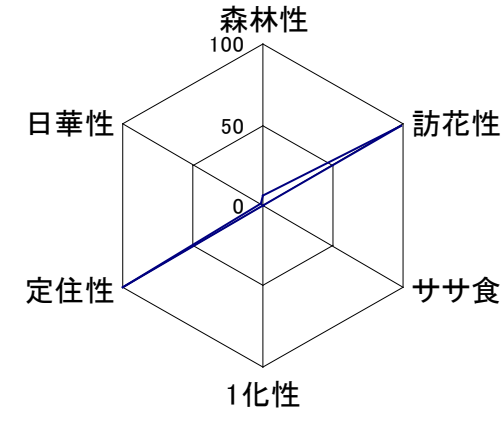


個体数からみた割合 (%)

久屋大通 (2010～2012 年)

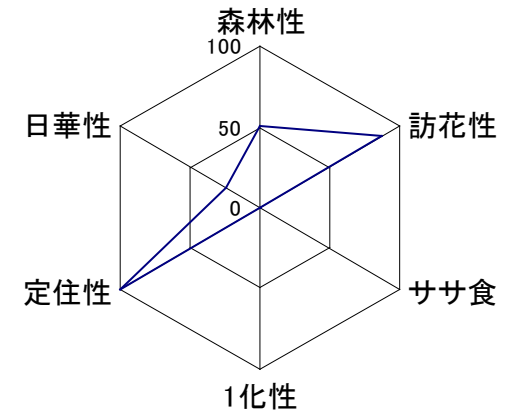


種数からみた割合 (%)

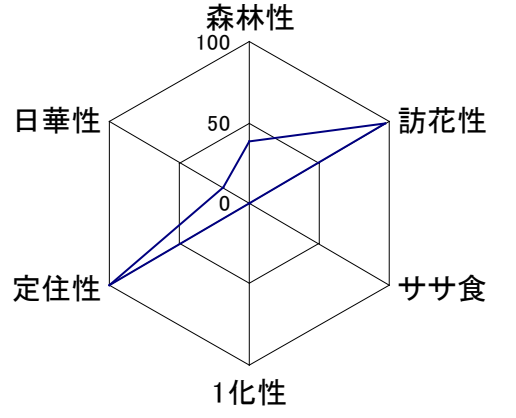


個体数からみた割合 (%)

オアシス 21 (2010～2012 年)



種数からみた割合 (%)



個体数からみた割合 (%)

下園公園 (2010～2012 年)

8 まとめ

2010年4月～2012年10月の3年間の調査で確認されたチョウ類は、全調査地点の累計で計31種であり、その内訳は以下の通りであった。

表 8 調査地点別チョウの確認種名と確認種数（3年間の累計）

	プランター設置箇所														既存緑地				
	滋賀銀行名古屋支店	名古屋東海上日動ビルディング	名古屋パナソニックビル	関林工業本社	名古屋1Fセントラルビル	三菱住友銀行SMBCパルク栄	アムナットスクエア	名古屋ATビル	岡谷綱機本社	中日ビル	三晃錦ビル	竹尾名古屋支店	ウエステインスルナゴヤキャッスル	名古屋西幼稚園	名城公園	白川公園	久屋大通公園	オアシス21	下園公園
イチモンジセセリ	○	◎◎		○	◎◎	○	◎◎	○	○	○		○	○	○	◎◎	◎◎	○	○	○
チャバネセセリ	○	◎◎	◎	◎◎	◎◎	○	○		○	◎◎	○	○	○	◎	○	◎◎	◎◎	○	○
ジャコウアゲハ本土亜種															○		◎◎		
アオスジアゲハ	◎◎		○	◎◎	◎	◎◎	◎◎	○	◎◎	◎◎	◎◎	◎	◎◎	◎	◎◎	○	◎◎	○	○
カラスアゲハ本土亜種															◎◎				
キアゲハ															◎				
モンキアゲハ															○				
ナガサキアゲハ		◎◎													◎◎	◎◎	◎◎		○
クロアゲハ本土亜種															◎◎	◎◎	◎		
ナミアゲハ	◎◎	◎◎	◎	◎◎	◎◎	◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	○	○
モンキチョウ															○	○			
キチョウ						○							○		○		○	○	
モンシロチョウ	◎◎	◎			◎◎	◎◎	◎◎	◎	◎	◎◎		◎◎	◎◎	◎	◎◎	◎◎	◎◎	○	◎◎
ルリシジミ						◎◎	◎◎						○		○				
ツバメシジミ													○		○	○			
ウラナミシジミ													○		○	○	○	○	
ベニシジミ		◎◎		○									○		◎◎		○	○	
ムラサキツバメ															◎◎	○			◎
ヤマトシジミ本土亜種	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	○	◎◎	◎◎	◎◎
ウラギンシジミ															◎◎	○	○		○
テングチョウ本土亜種															○				
アサギマダラ															○				
ミドリヒョウモン															○				
ツマグロヒョウモン	◎◎	◎◎	◎	◎◎	◎◎	○	◎	◎◎		◎◎	◎	◎◎	○	◎◎	◎◎	○	○	◎◎	
ヒメアカタテハ															○	○			
アカタテハ															◎◎	○	○		
ルリタテハ本土亜種														○				○	
キタテハ															○	○	○		
コムラサキ															○				
ゴマダラチョウ															○				
クロノマチョウ															○				
累計出現種数(繁殖種数)	7(5)	8(8)	5(4)	7(5)	7(7)	8(4)	7(6)	6(4)	6(4)	7(6)	5(4)	7(5)	11(4)	8(6)	31(14)	18(6)	17(8)	11(2)	9(3)

※○成虫の飛来を確認、◎産卵、幼虫の生育(繁殖)を確認、※淡橙色塗りつぶし部分は屋上設置箇所の確認状況

プランター設置箇所では、ナミアゲハとヤマトシジミをすべての地点で確認し、次いでイチモンジセセリ、チャバネセセリ、アオスジアゲハ、ツマグロヒョウモン(12か所)、モンシロチョウ(11か所)の順に多く確認した。

一方、既存緑地では、イチモンジセセリ、チャバネセセリ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミをすべての地点で確認し、次いでナガサキアゲハ、ウラナミシジミ、ウラギンシジミ、ツマグロヒョウモン、キタテハ(いずれも4地点)の順に多く確認した。

プランター設置か所のうち、地上部の調査地点での確認種数は6種～11種であり、屋上の調査地点での確認種数は5種～7種であった。ナミアゲハとヤマトシジミは地上部と屋上を問わず、全ての調査地点で確認された。

また卵・幼虫・蛹などの繁殖が確認された種数に着目すると、プランター設置箇所での確認種数は4種~8種であり、一方既存緑地5か所での繁殖確認種数は多い緑地から順に14種、9種、6種、3種、2種であった。今回設置されたプランターの植物は、食草・食樹を重視して植栽し蜜源植物の割合は少なかったため、飛翔確認種数自体は多くはなかったものの、既存緑地に比して成虫の飛翔確認種数に対する繁殖確認種数の割合が多くなった。このことから都市域の小規模な緑地でも食草・食樹を植栽すればチョウの繁殖に有効であることが確認された。

一方、チョウが蜜源として利用した植物種については次の通りであった。プランター設置箇所では採用した蜜源植物の種類が限定されたが、ブッドレアとランタナはチョウ種を問わず広く利用されていた。その中でヤマトシジミのみが、カタバミ、シロツメクサ、アザミも利用しているのが観察された。また、コア緑地では、草本類や木本類を問わず四季折々の極めて多様な蜜源植物や樹液が利用されていることが確認された。しかし、チョウの科によって利用される花にかなり違いがあることも、また花の中にもいずれのチョウ種も全く利用しない植物もあることも確認された。

また、コア緑地から市街地へのチョウの移動・分散に、市街地の植栽が与える影響について上記調査結果を元に解析を行った。チョウの出現種数はコア緑地の配置の影響が大きく、その規模（面積）はあまり影響しないことがわかった。また、都市域でのチョウの移動・分散はコア緑地から2kmの範囲内では飛び石効果によって分散するのでなく、全域にランダムに飛来し分散することがわかった。また、プランターにはチョウを誘因する効果はあったが、移動を助ける飛び石としての効果は軽微であった。

以上の検討から、都市域でチョウがすめる環境を創出していく上で、供給源としてのコア緑地が重要であることや、プランターのような小規模な緑地でもチョウの呼び込みは可能であること、そしてそれらの緑地間の有機的なネットワーク（エコロジカルネットワーク）の形成により都市におけるチョウの円滑な移動を確保することが重要であること、創出すべき環境として食草・食樹だけでなく蜜源植物の適切な選定や季節ごとのローテーションが重要であることなどが示唆された。

今後の課題としては、都市域でのチョウの移動・分散に影響する要因のさらなる分析が必要であり、確認種と微細な環境（隣接ビルの高さや日照など）の関係なども引き続き分析していく予定である。また、2013年以降も市内の新たなコア緑地や新設調査拠点などを対象に、調査を継続していく予定である。

9 謝辞

本調査を進めるにあたり、調査用プランターや植栽を設置するためのスペースをご提供いただいた関係先の方々には多大なるご協力とご支援を賜りました。心より厚く御礼申し上げます。

以上